

ORIA mini

ルーム補正システム

Manual V1

AUDIENT

ORIA miniへようこそ。ORIA miniはオーディオインターフェースとスピーカーの間にシームレスに設置できるように設計されています。

聴いている音が信じられないなら、ミックスも信じられないでしょう。

実は、あなたの部屋の環境があなたのパフォーマンスを阻害している可能性が高いのです。

オーディオインターフェースとスピーカーの間に設置できる、強力なルーム補正ツール、ORIA Miniをご紹介します。スタジオ モニタリングを変革し、パフォーマンスを瞬時に向上させます。

Sonarworksとの提携により、部屋の音響的欠陥を数分で分析・補正する

専用ハードウェア ソリューションを実現しました。

スタジオを、当て推量でしかなかったシステムから、信頼性の高いプロフェッショナルな

モニタリング環境へと進化させることができになりました。

01 適合宣言

02 インストール / セットアップ

同梱物

初期セットアップ

Mac セットアップ

Windows セットアップ

Audient ARC への登録

ファームウェアアップデート手順

03 ハードウェアの機能と接続性

概要

アナログ入力

デジタル入力

スピーカー出力

USB 接続

プロファイル切り替え

信号およびピークインジケーター



04 ソフトウェア機能

概要
プロファイル
入力ソース
スピーカー音量
モニターコントロール
ライト/ダークモード
スピーカーボタン
グローバルバイパス
メーター
セットアップボタン
ルーム
ソロとミュート
スピーカーグループコントロール
システムパネル
出力キャリブレーション
Sonarworks SoundID Reference トラブルシューティング
マニュアルキャリブレーション

05 コントローラー

iPadアプリ
ストリームデッキ
トラブルシューティング

06 テクニカルスペシフィケーション

Sonarworks 測定用マイク 技術仕様

07 安全情報

08 保証情報

09 Sonarworks 連携に関する重要なご案内

FCC規則パート15B準拠の適合宣言 (USの規制)

FCC Part 15B

本製品は、FCC規則パート15Bに基づき、クラスAデジタル機器の制限事項に準拠していることが試験により確認されています。

これらの制限事項は、住宅への設置において有害な干渉に対する適切な保護を提供するために制定されています。本製品は無線周波数エネルギーを生成、使用し、また放射する可能性があり、取扱説明書に従って設置および使用されない場合には、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。

本製品がラジオまたはテレビの受信に有害な干渉を引き起こしているかどうかは、機器の電源のオン/オフを切り替えることで確認できます。干渉の是正を試みることを推奨します。

- 1 受信アンテナの向きを変えるか、設置場所を変える
- 2 機器と受信機の距離を広げる
- 3 受信機が接続されているコンセントとは別の回路のコンセントに機器を接続する
- 4 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談する



Audient Ltd (所在地: Aspect House, Herriard, Hampshire, RG25 2PN, UK, 01256 381944) は、ORIA MiniがFCC規則第15部に準拠していることを、当社の単独の責任において宣言します。

操作には以下の2つの条件が適用されます。:

1. 本製品は有害な干渉を引き起こしてはなりません。
2. このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含む、受信したあらゆる干渉を受け入れなければなりません。



Audient Ltd 社は、本宣言の対象製品である ORIA Mini が、消費者向けに設計されたオーディオ製品に関する適切な CE 規格および指令に実質的に準拠していることを宣言します。



Audient Ltd 社は、本宣言の対象製品である ORIA Mini が、消費者向けに設計されたオーディオ製品に関する適切な UKCA 規格および指令に実質的に準拠していることを宣言します。



Audient Ltd は、該当する場合、欧州連合の指令 EN 63000:2018「有害物質の使用制限 (RoHS)」、および RoHS に言及するカリフォルニア州法の以下の条項 (健康安全法のセクション 25214.10, 25214.10.2、および 58012、および公共資源のセクション 42475.2) に準拠しています。



静電気放電が発生する環境下では、機器から音声が出力されなくなる場合があります (EUTが正常に動作しない可能性があります)。この場合、機器をホストコンピュータから取り外し、再度接続することでリセットする必要があります。

電源ラインに無線干渉がある場合、機器は期待どおりに動作しない可能性があります。リセット後、機器は通常の動作に戻ります。



Audient社は、本宣言の対象製品であるORIA Miniが、消費者向けオーディオ製品に関する適切なPSE規格および指令に実質的に適合していることを宣言します。経済産業省令別表第12 J55032(H29)。



IEC 62368 テスト レポート。

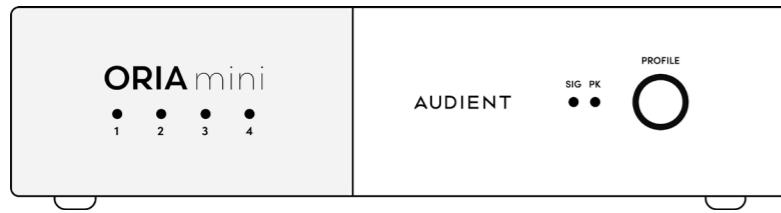
⚠ WARNING : This product can expose you to BPA and other chemicals which are known to the State of California to cause cancer and/or birth defects or other reproductive harm. For more information go to www.p65warnings.ca.gov.

インストールとセットアップ

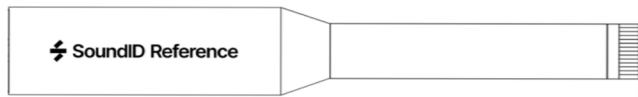
同梱物

- 1 1 x ORIA Mini 本体
- 2 1 x Sonarworks (™) 測定用マイク & マイククリップ
- 3 1 x USB C-C ケーブル

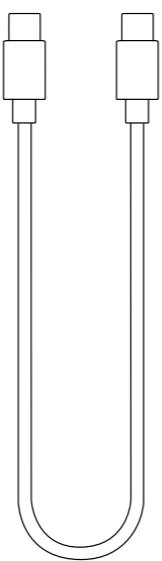
1



2

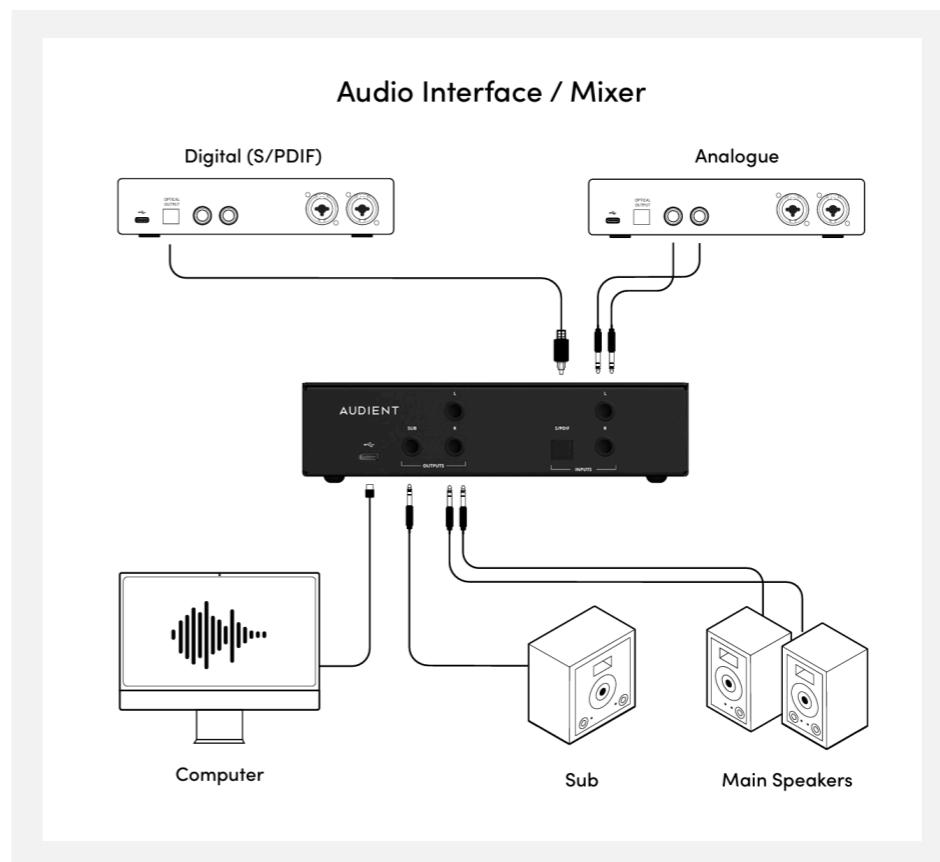


3



初期設定

ORIA Miniを使い始める際は、まず入力ソースとスピーカーを接続し、付属のUSBケーブルでORIA Miniをコンピューターに接続します。



入力

オーディオインターフェースやミキサーなどの入力ソースは、アナログとデジタルの両方での接続が可能です。アナログソースの場合はTRS入力、デジタルソースの場合は光デジタルポート(S/PDIF)に接続します。接続後、ORIA Controlデスクトップソフトウェアでアクティブな入力を選択できます。

出力

ORIA Miniは、ステレオスピーカーセットとサブウーファー1台を接続できるラインレベル出力を備えています。これは、パワードスタジオモニターまたはパワーアンプへ直接入力するように設計されています。

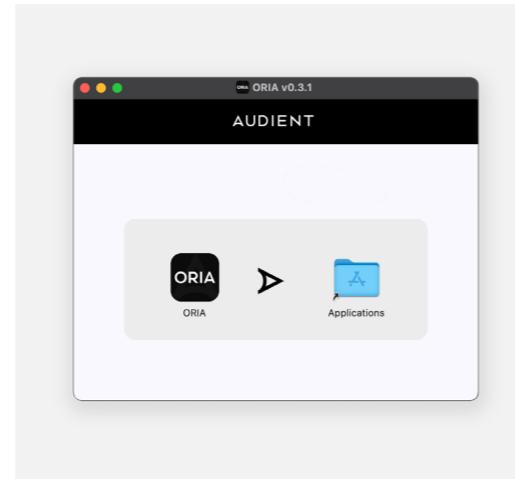
Macへのインストール

<https://audient.com/products/monitor-controllers/oria-mini/downloads/> にアクセスし、ORIA Control Desktop ソフトウェアの最新バージョンをダウンロードしてください。

ダウンロード後、.dmg ファイルを開き、ORIA Control Desktop ソフトウェアをアプリケーションフォルダにドラッグ&ドロップしてください。

システム要件：

macOS 10.13.6 (High Sierra) 以降 Intel CPU または Apple Silicon
1GB以上のRAM



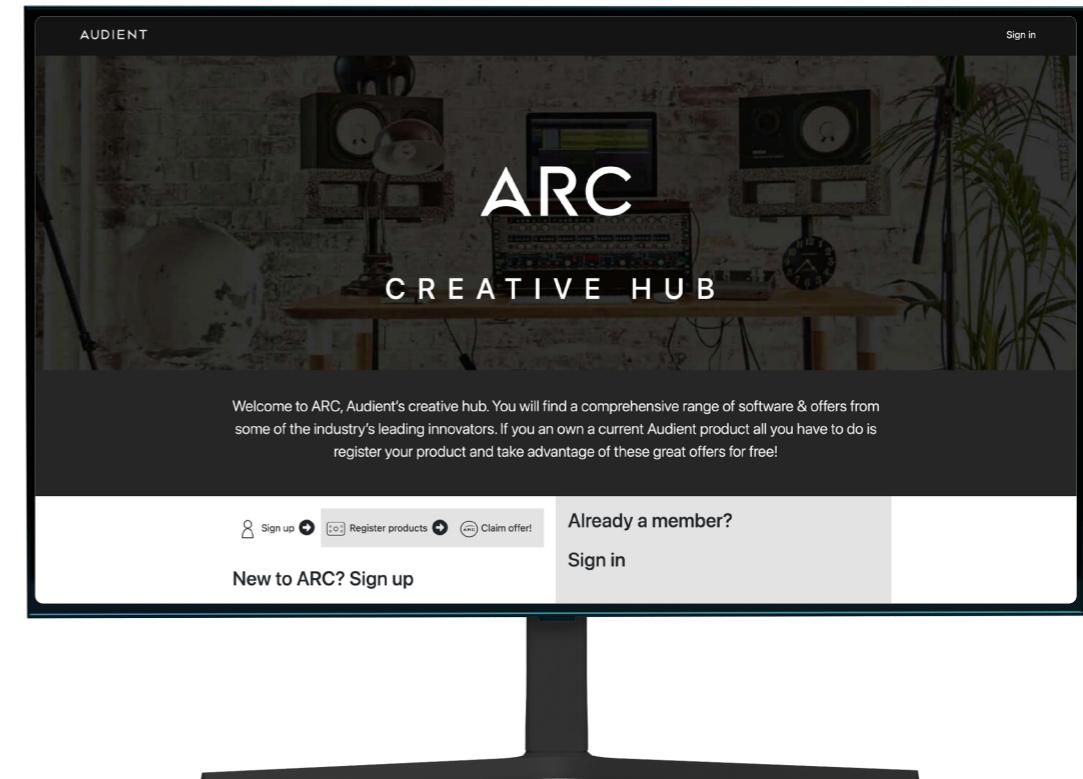
Audient ARCへの登録

ORIA Miniには、業界をリードするイノベーターによるプロフェッショナル向けソフトウェアとサービスがバンドルされており、レコーディングを始めるのに必要なすべてが揃っています。

arc.audient.com にアクセスし、「Register Your Product/製品登録」を選択し、詳細情報を入力してアカウントを作成してください。確認メールが受信トレイに届きますが、迷惑メールフォルダに振り分けられている可能性があります。

アカウントの確認が完了したら、ORIA Miniの底面に記載されているシリアル番号と4桁のPINコードを入力して登録してください。

製品登録が完了すると、豊富な無料ソフトウェアやプラグインからお選びいただき、すぐにパワフルなクリエイティブツールにアクセスできます。



Windowsへのインストール

ORIA Control デスクトップ ソフトウェアの最新バージョンをダウンロードするには、<https://audient.com/products/monitor-controllers/oria-mini/downloads/> にアクセスしてください。ダウンロードしたら、.exe ファイルを開いてください。

画面の指示に従ってインストールを完了してください。インストールには多少時間がかかる場合がありますので、しばらくお待ちください。完了したら、「Finish/完了」をクリックしてください。

システム要件：

Windows 10 以降
2006年1月以降に製造された PC またはノート PC Intel Core 2 @1.6GHz、または同等の AMD プロセッサ
1GB 以上の RAM

ファームウェアアップデートの手順

Audientは、機能追加やオペレーティングシステムアップデートへの継続的な互換性確保のため、ORIA Miniの新しいファームウェアを定期的にリリースしています。

インターネット接続がある場合、ORIA Controlデスクトップソフトウェアは定期的に新しいファームウェアアップデートがあるかどうかを確認し、ある場合は通知します。

「Help/ヘルプ」>「Check for Updates/アップデートの確認」をクリックして、ファームウェアアップデートを手動で確認することもできます。

アップデートがある場合は、ORIA Controlデスクトップソフトウェアから通知されます。

「OK」をクリックすると、ファームウェアアップデートプロセスが開始されます。

audient.com からアップデートするか、ローカルファイルからアップデートするかを選択できます。

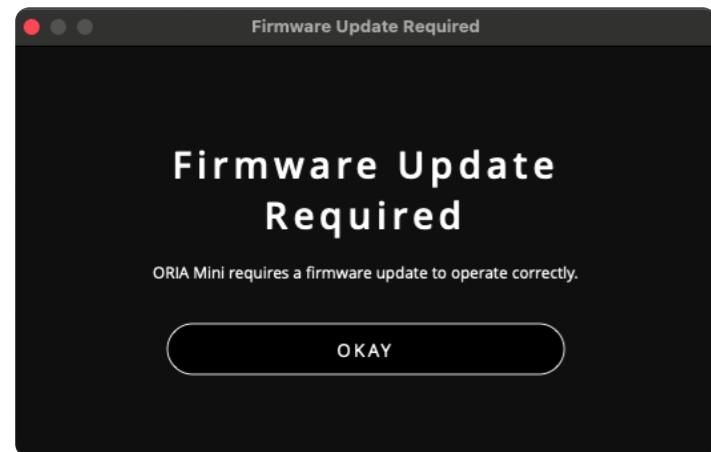
お使いのコンピューターがインターネットに接続している場合は、「From audient.com /audient.com から」を選択して、最新のファームウェアバージョンをインストールしてください。

お使いのコンピューターがインターネットに接続されていない場合は、support@audient.comまでご連絡ください。弊社のチームがローカルにインストールするための最新のファームウェアファイルをご提供いたします。

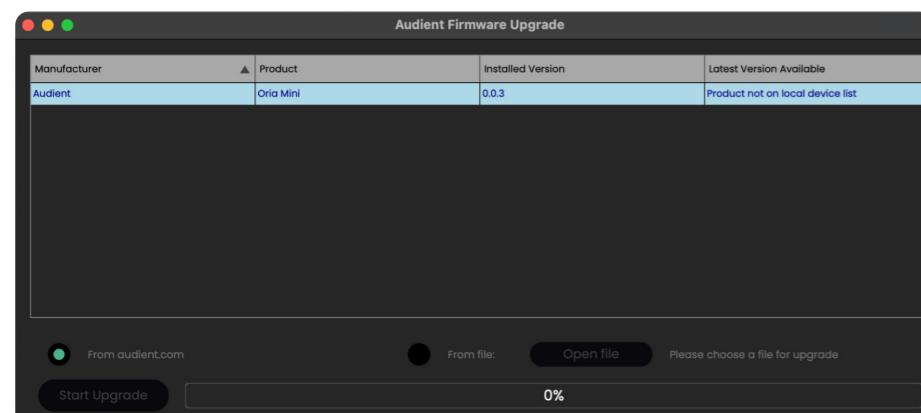
「Start Upgrade/アップグレードを開始」をクリックすると、プログレスバーが増加し始めます。アップデート処理中、ORIA Mini 本体が複数回再起動する場合があります。

完了すると、アップデートがインストールされたことを確認する通知が表示されます。

Audient ファームウェア アップグレード ウィンドウを閉じて、ORIA Mini を引き続きご使用ください。

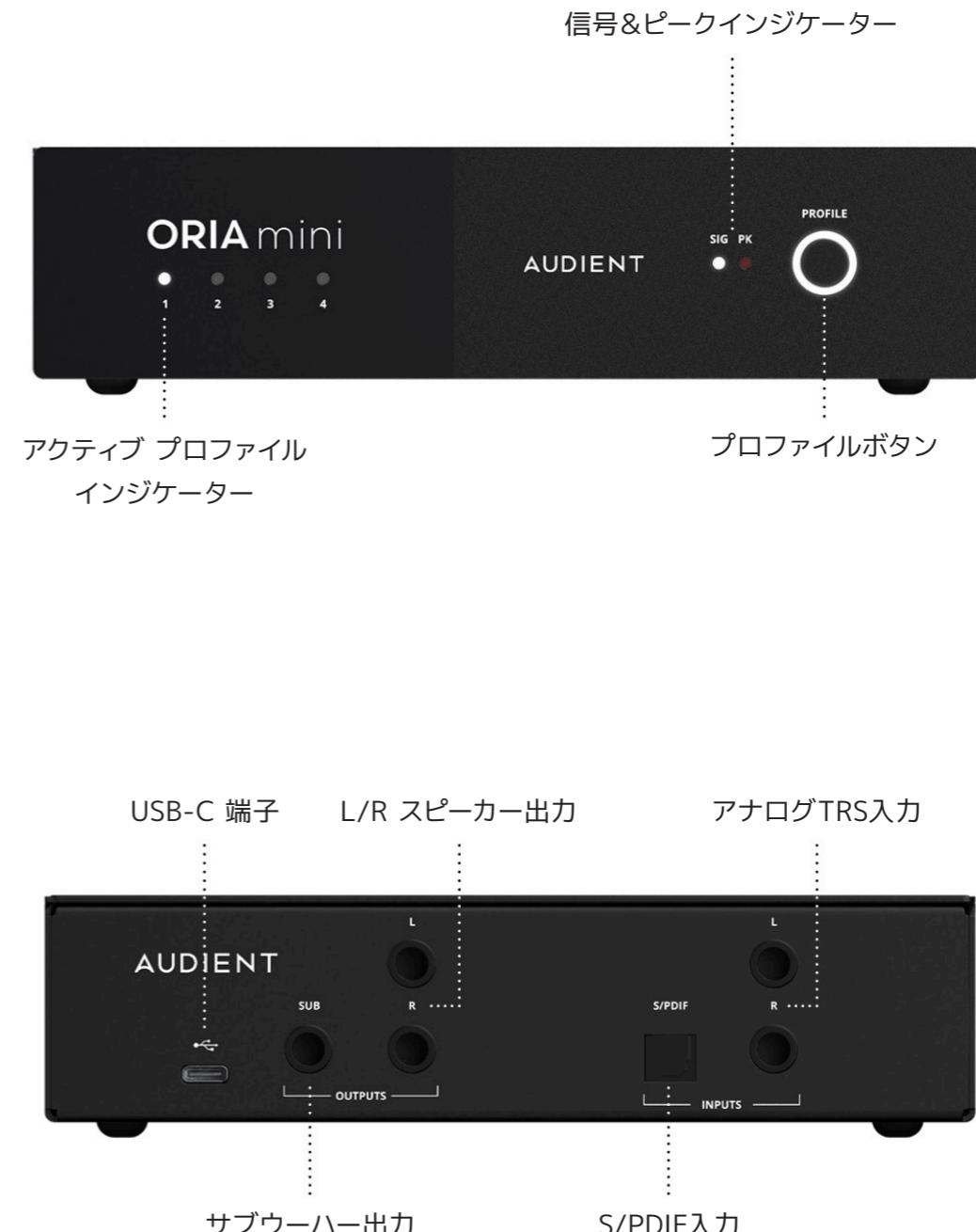


ORIA Controlデスクトップソフトウェアは Audient ファームウェア アップグレード ソフトウェアを起動します。このソフトウェアには、コンピューターに接続されているすべてのAudientデバイスのリストが表示されます。デバイスリストからORIA Miniを選択してください。



ハードウェアの機能と接続

概要



アナログ入力

ORIA Miniには、オーディオインターフェースやその他のラインレベル機器からのオーディオ信号を入力するバランスTRS入力が2系統搭載されています。また、CDプレーヤーや携帯電話などのアンバランス機器からの信号入力も可能です。

ORIA Miniの最大入力レベルは+18dBuです。ご使用のインターフェースの最大出力レベルがこれより高い場合は、ORIA Miniの入力で信号がクリップしないように、ボリュームを十分に下げてください。

デジタル入力

ORIA Miniは、アナログTRS入力に加え、デジタルS/PDIFソースからのステレオオーディオも入力できます。この入力には光TOSlinkコネクタを使用します。

同軸接続でS/PDIF信号を出力するソースを使用する場合は、同軸-光コンバーターが必要です。コンバーターはオンラインで簡単に入手できます。

スピーカー出力

ORIA Miniは、ステレオL/Rチャンネル用に2系統、サブウーファー用に1系統、計3系統のバランス出力を備えています。スピーカー出力はバランスTRS接続ですが、TSジャックへの接続でアンバランス接続も可能です。

スピーカー出力はラインレベルで、アクティブモニターへの接続用に設計されています。パッシブスピーカーを使用する場合は、スピーカーの前に適切なパワーアンプの接続が必要です。

LR別々の入力を持つサブウーファーを使用する場合は、ORIA MiniのSUB出力をサブウーファーのL入力にのみ接続してください。

USB 接続

ORIA MiniにはUSB-Cポートが搭載されており、デバイスへの電源供給と、ORIA Controlデスクトップソフトウェアを使用したリモートコントロールに使用できます。

USB接続経由でORIA Miniにオーディオ信号を送信することはできません。オーディオ信号はアナログまたはS/PDIF入力から入力する必要があります。

USB接続には、5V @ 900mAのバスパワーを供給できるUSB 3.0以降のポートが必要です。また、ORIA Miniは外部USB-C電源アダプターから電源供給することも可能です。

プロファイルの切り替え

プロファイルボタンを使用すると、ORIA Miniに保存されている上位4つのお気に入りプロファイルを切り替えることができます。これにより、特定のセットアップや使用しているメディアの種類に合わせて、キャリブレーションが素早く調整できます。

プロファイルボタンをタップするだけで、保存されている上位4つのプロファイルが順番に表示されます。保存されているプロファイルが4つ未満の場合は、保存されているプロファイルの数だけ表示されます。

プロファイルボタンは、DSPをバイパスしてユニットをスタンバイ状態にするためにも使用できます。DSPをバイパスするには、プロファイルボタンを3秒間押し続けます。DSPがバイパスされている間、プロファイルLEDリングが点滅します。プロファイルボタンを6秒間押し続けると、ORIA Miniがスタンバイモードになります。スタンバイまたはバイパスモードを終了するには、プロファイルボタンを再度タップします。

注意: プロファイルボタンは、本体を工場出荷時の状態にリセットするためにも使用します。この操作により、ORIA Miniは工場出荷時の状態にリセットされ、保存されているプロファイルはすべて削除されます。工場出荷時の状態にリセットするには、電源投入時にプロファイルLEDが点滅するまでボタンを押し続けます。その後、ボタンを放します。最後にもう一度ボタンを長押しすると、すべてのLEDが点灯し、フラッシュの消去が完了すると消灯します。

シグナルインジケーターとピークインジケーター

これらのインジケーターは、ORIA Miniに送られるおおよその信号レベルを示します。

シグナルインジケーターは、ORIA Miniの入力に適切な信号レベルが送られていることを示します。

ORIA Miniにオーディオ信号を送っているにもかかわらずシグナルインジケーターが点灯しない場合は、選択されている入力ソース（アナログまたはS/PDIF）が間違っている可能性があります。それでも点灯しない場合は、ORIA Miniに信号を送る機器がしっかりと接続されていることを確認してください。

ピークインジケーターは、ORIA Miniの入力または出力にピークがある場合に点灯します。

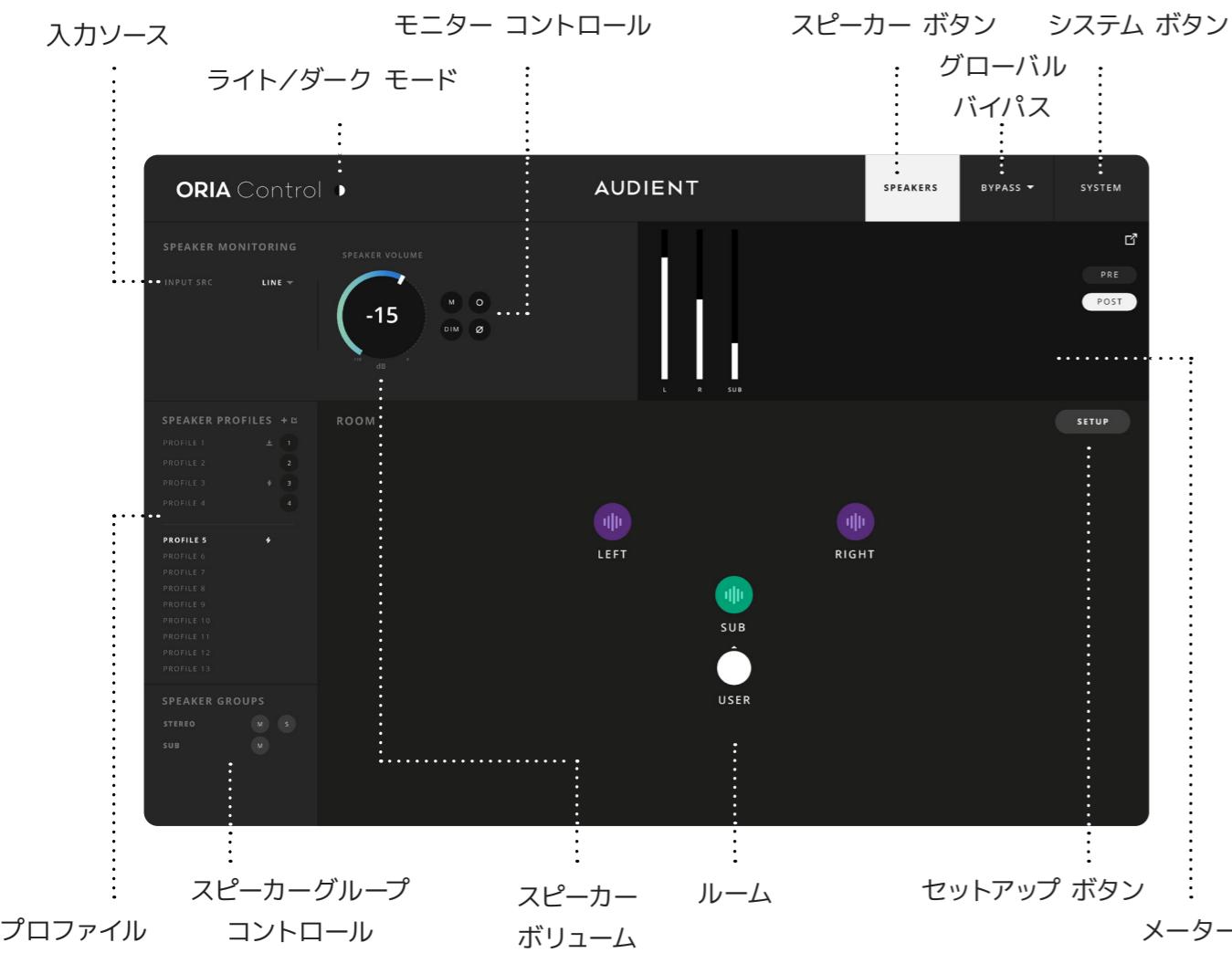
入力にピークがある場合は、ORIA Miniに信号を送るオーディオ機器からの信号が+18dBuを超えていないことを確認してください。そのため、オーディオ機器の出力レベルを下げる必要があります。

出力にピークがある場合は、キャリブレーションEQの設定が極端に高く、信号に過大なゲインが加えられている可能性があります。一般的なリスニング空間では、このような極端なイコライゼーションは必要ありません。スピーカー信号にこのような極端なイコライゼーションを適用する必要がある場合は、スピーカーの配置を変えたり、部屋の処理を改善したりするなどの他の解決策を検討する必要があります。

ソフトウェアの機能

概要

ORIA Miniのスピーカーキャリブレーションやその他の設定はすべてORIA Controlデスクトップソフトウェアによって制御され、キャリブレーションとオーディオルーティングをパワフルにハンズオンコントロールできます。

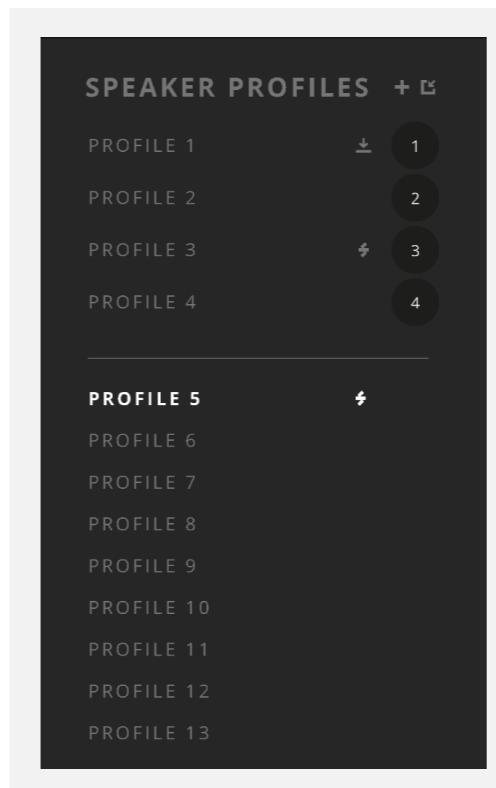


プロファイル

プロファイルはORIA Miniのコントロール哲学の核心です。

プロファイルを選択すると、ボタンを1回押すだけで、すべてのスピーカーチャンネルのキャリブレーションパラメータが選択できます。

ORIA Mini本体には合計32個のプロファイルを保存でき、お気に入りの4つのプロファイルはフロントパネルのORIA Miniプロファイルボタンから呼び出すことができます。

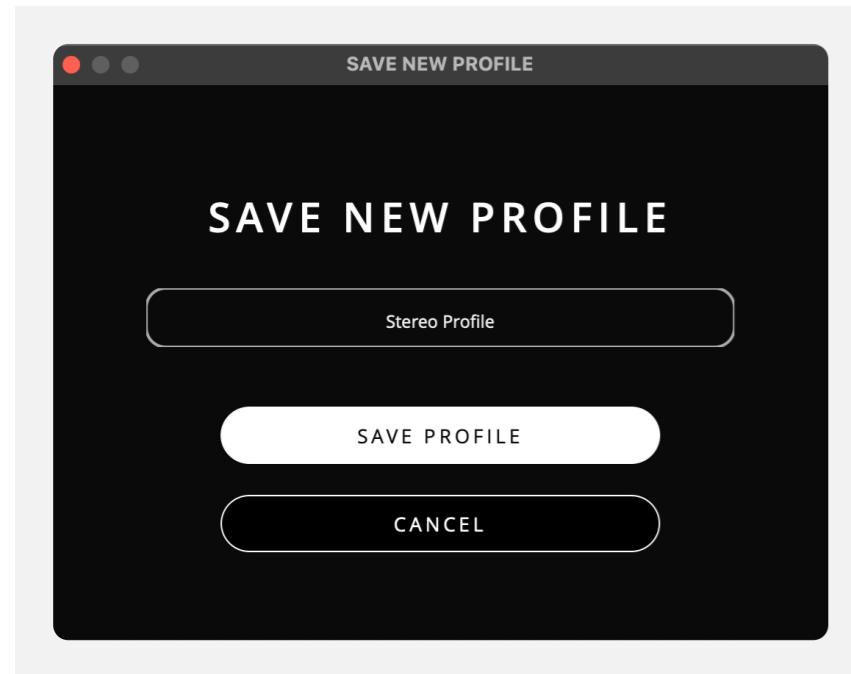


プロファイルには、各チャンネルのEQカーブ、トリム、ディレイ、クロスオーバーなど、すべてのスピーカーキャリブレーション設定が保存されます。ORIA Controlデスクトップソフトウェアアプリケーションで新しいプロファイルを手動作成することも、Sonarworks(TM)*のSoundID Referenceアプリからインポートすることもできます。

*Sonarworks SoundID Referenceからプロファイルをインポートするには、Sonarworks ORIA Miniアドオンライセンスが必要になります。

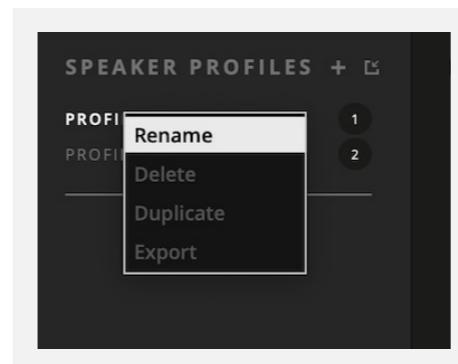
新しいプロファイルの作成

新しいプロファイルを作成するには、プロファイルパネルの右上にある「+」アイコンをクリックします。プロファイルに名前を付けて「Save/保存」をクリックします。



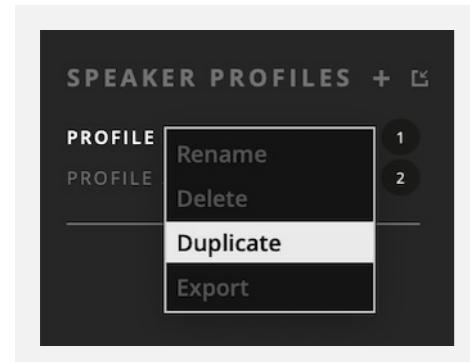
プロファイル名の変更

プロファイル名を変更するには、プロファイルパネルでプロファイル名を右クリックし、「Rename/名前の変更」を選択します。カーソルが表示され、テキストを編集できるようになります。新しい名前を入力し、Enterキーを押してください。



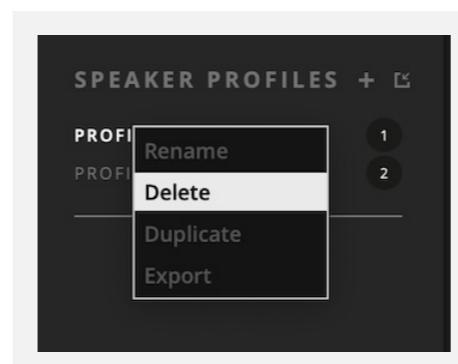
既存のプロファイルを複製する

既存のプロファイルを複製するには、プロファイルパネルでプロファイル名を右クリックし、「Duplicate/複製」を選択します。複製されたプロファイルは、元のプロファイルの下に表示されます。



プロファイルの削除

プロファイルを削除するには、プロファイルパネルでプロファイル名を右クリックし、「Delete/削除」を選択します。削除を確認するウィンドウが表示されます。



プロファイルの整理

プロファイルリストは2つのセクションに分かれています。「Favourite/お気に入り」プロファイルは、境界線より上にリストされ、それぞれに番号が付けられている4つのプロファイルです。これらは、ORIA Miniハードウェアのプロファイルボタンを使用して選択できます。境界線より下のプロファイルは、「Non-Favourite/お気に入りではない」プロファイルです。

プロファイルは、選択したプロファイル上でマウスの左ボタンを押したまま、任意の場所にドラッグするだけで、いつでも並べ替えることができます。プロファイルの並べ替えは、以下のロジックに従って行われます。

Favourite/お気に入り → Favourite/お気に入り: 2つのプロフィールの位置が入れ替わります。

Favourite/お気に入り → Non-Favourite/お気に入り以外: お気に入りプロフィールはユーザーが意図した場所に配置されます。お気に入り以外のプロフィールの一番上は、お気に入りセクションに移動されます。

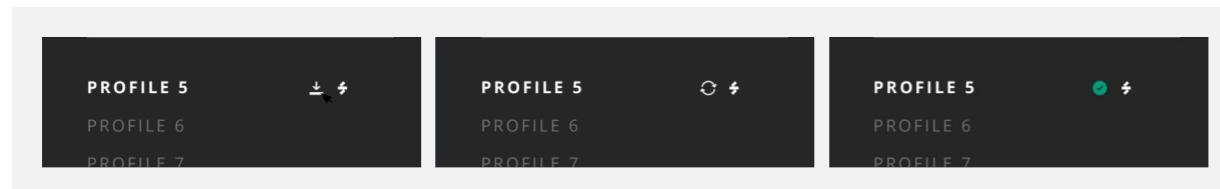
お気に入り以外 → Non-Favourite/お気に入り以外: プロフィールはユーザーが意図した場所に配置され、それより下のプロフィールはすべて下に移動します。

Non-Favourite/お気に入り以外 → Favourite/お気に入り: お気に入り以外のプロフィールは、元のお気に入りプロフィールの位置と入れ替わります。元のお気に入りプロフィールはお気に入り以外のリストの一番上に配置され、他のすべてのプロフィールは下に移動します。

プロファイルの選択

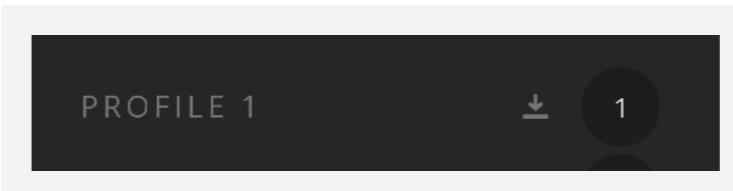
プロファイルを使用するには、プロファイルリストから目的のプロファイルをクリックするだけです。これがアクティブなプロファイルになります。このプロファイルは白い文字で強調表示され、他の非アクティブなプロファイルはグレー表示されます。

また、本体前面のプロファイルボタンをタップして、4つのお気に入りプロファイルを選択することもできます。お気に入りプロファイルは、選択したプロファイルを順番に切り替えながら選択できます。

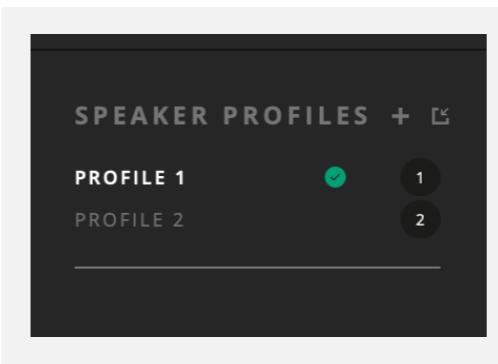


プロファイルの変更

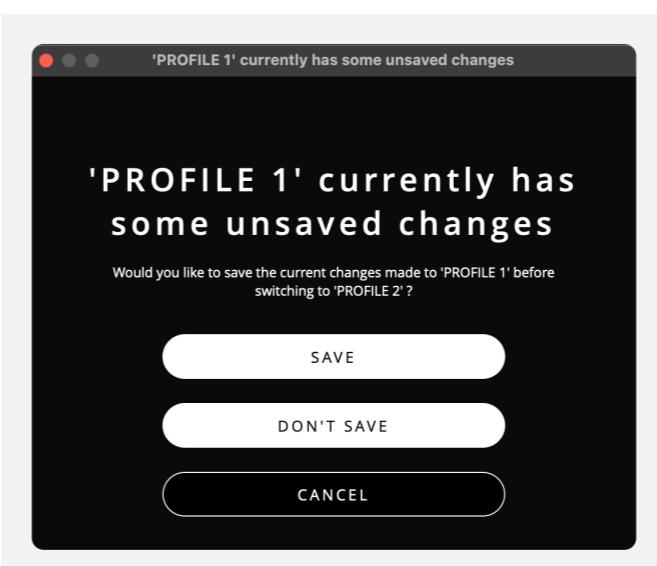
プロファイルがアクティブな状態で設定を変更すると、アクティブプロファイルの横に小さなアイコンが表示されます。これは、変更内容がまだプロファイルに保存されていないことを示します。



変更を保存するには、アイコンをクリックするだけです。変更が保存されるまではしばらくお待ちください。保存が完了すると、完了を示す緑色のチェックマークアイコンが表示されます。



別のプロファイルに変更しようとしたり、変更を保存せずに ORIA Control デスクトップ ソフトウェアを閉じようとするとき、現アクティブ プロファイルへの変更を保存するか、新しいプロファイルを作成するか、変更を破棄するかを尋ねるダイアログ ボックス ウィンドウが表示されます。



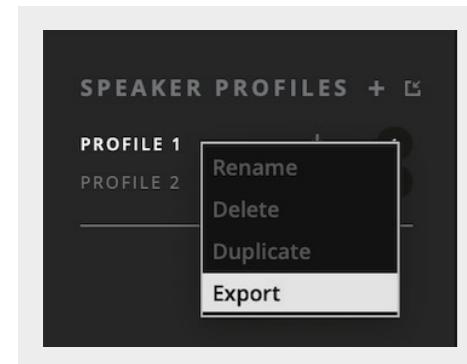
プロファイルのインポートとエクスポート

ORIA Control デスクトップソフトウェアでは、手動で作成したプロファイルをエクスポートして、バックアップしたり、ユーザー間で共有したりできます。さらに、SonarworksとORIAMiniのカスタムプロファイルを外部ファイルからインポートするオプションもあります。

カスタムプロファイルのエクスポート

現在アクティブなカスタムプロファイルをエクスポートするには、メニューバーから「File/ファイル」>「Export Custom Profile/カスタムプロファイルのエクスポート」を選択します。

プロファイルリストでプロファイルを右クリックし、「Export/エクスポート」を選択してもエクスポートできます。



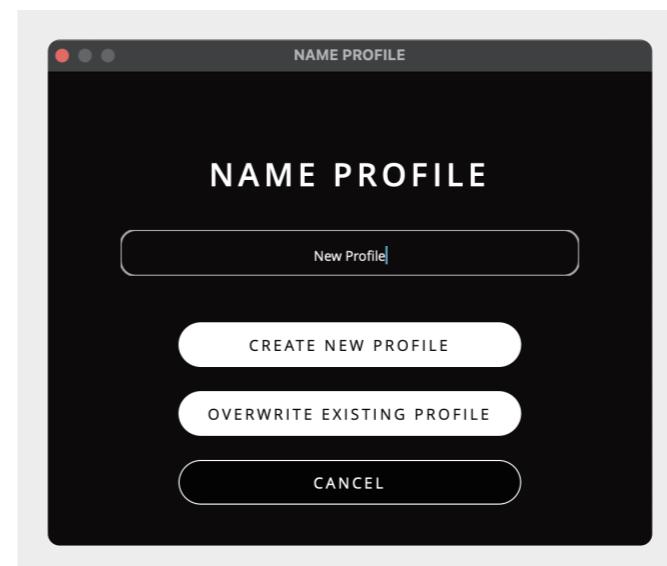
プロファイルに名前を付け、プロファイルファイルのエクスポート先を選択します。「Save/保存」をクリックすると、プロファイルがエクスポートされます。

カスタムプロファイルのインポート

カスタムプロファイルをインポートするには、メニューバーから「File/ファイル」>「Import Custom Profile/カスタムプロファイルをインポート」を選択します。

Finderまたはエクスプローラーのウィンドウが開き、以前に保存したプロファイルを選択できます。ファイルを選択したら、「Open/開く」をクリックします。

次の画面で、必要に応じてプロファイルの名前が変更できます。
また、新しいプロファイルを作成するか、既存のプロファイルを上書きするかを選択することもできます。

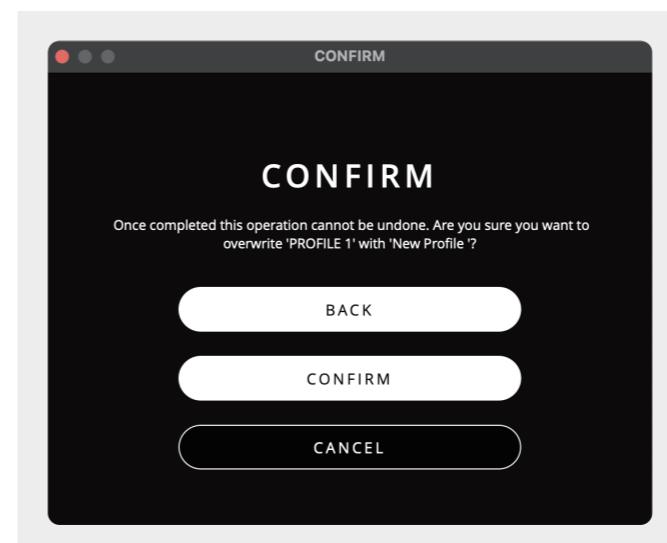


新しいプロファイルの作成 - 「Create New Profile/新しいプロファイルの作成」を選択すると、ORIA Control デスクトップ ソフトウェアの左側にあるプロファイルの一覧にプロファイルが追加されます。

プロファイルは最大 32 個まで作成できます。すべてのスロットが埋まっている場合は、「Create New Profile/新しいプロファイルの作成」がグレー表示になり、既存の設定を上書きするか、変更を破棄する必要があります。

既存のプロファイルの上書き - 「Overwrite Existing Profile/既存のプロファイルの上書き」を選択すると、上書きする既存のプロファイルを選択できます。

プロファイルの一覧からプロファイルを選択し、「OK」をクリックします。
選択したプロファイルを上書きするかどうかを確認する画面が表示されます。



プロファイルを上書きすると、元に戻すことはできませんのでご注意ください。
前の画面に戻りたい場合は「Back/戻る」をクリックするか、「Cancel/キャンセル」を選択してインポートを完全に中止してください。

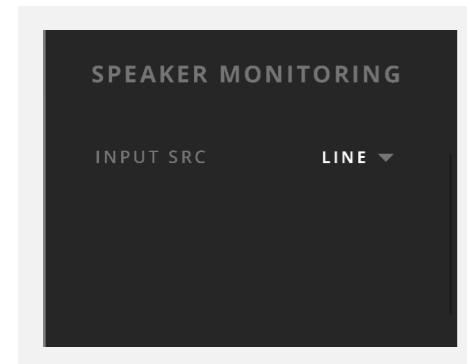
SoundIDプロファイルを手動でインポートする

Sonarworks SoundIDプロファイルを手動でインポートするには、メニューバーから「File/ファイル」>「Import SoundID Profile /SoundIDプロファイルをインポート」を選択します。

Finderまたはファイルエクスプローラーウィンドウが開き、Sonarworks SoundID Referenceソフトウェアアプリケーションで作成されたSoundIDプロファイルを選択できます。

ファイルを選択したら、「Open/開く」をクリックします。カスタムプロファイルをインポートする場合と同様に、新しいプロファイルを作成するか、既存のプロファイルを上書きするかを選択できます。

入力ソース



以下の入力ソースから選択できます。

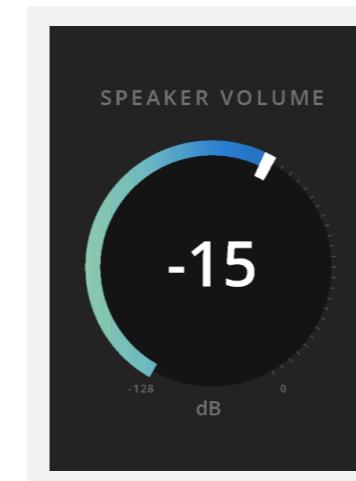
- Line/ライン
- S/PDIF

入力ソースの選択はプロファイルに保存されません。ソースを変更する場合は、個別に変更する必要がありますのでご注意ください。

スピーカー音量

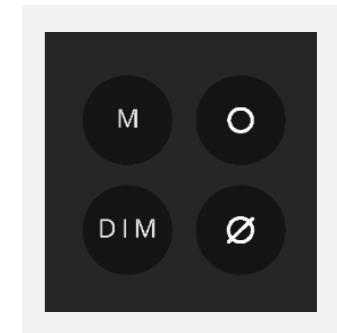
スピーカー音量コントロールをクリックしてドラッグして、スピーカーの音量レベルを調整できます。

外部機器のボリュームコントロールでモニター音量を調整する場合は、ORIA Miniのスピーカー音量を0dBに設定することをお勧めします。



モニターコントロール

リスニングをサポートするため、ORIA Miniには4つのモニターコントロールが搭載されています。



Mute/ミュート (M) - すべてのスピーカー出力がミュートされます。

DIM/ディム - 全体の音量を指定したレベルまで下げます。

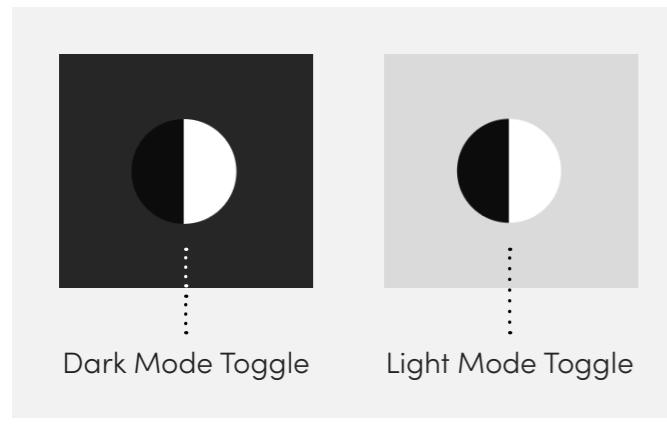
下げるレベルは、ORIA Controlデスクトップソフトウェアのシステムパネルで変更できます。

Mono/モノ - モノラル互換性チェックのために、左右のチャンネルを加算します。

Polarity/極性 - 左チャンネルの位相を反転し、出力をモノラルに加算します。

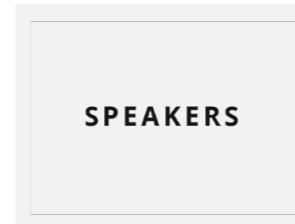
ライト/ダーク モード

ORIA Control デスクトップ ソフトウェアは、好みやスタジオ環境に応じて、ライトモードまたはダークモードで表示できます。



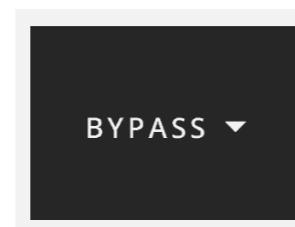
スピーカーボタン

システムパネルを開いている場合、Speakers/スピーカーボタンを使用すると、デフォルトのルームビューに簡単に戻ることができます。



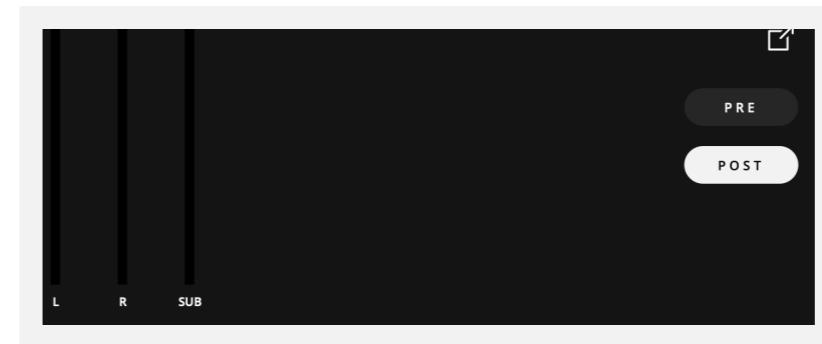
グローバルバイパス

これにより、ORIAコントロール デスクトップ ソフトウェア のすべてのDSP設定をBypass//バイパスできます。



メータリング

ORIA Control デスクトップ ソフトウェアは、レベル、出力ルーティング、そしてORIA Minis DSPの効果を素早く確認できる、分かりやすいメータリング ソリューションを提供します。メーター設定はプロファイルとは完全に独立しているため、プロファイル間を移動しても設定は変わりません。



PRE/プリ

入力ソースからORIA Miniに入力される信号を表示します。デフォルトではPREが選択されています。

POST/ポスト

出力DSPを通過後、ORIA Miniからスピーカーに送られる信号を表示します。POSTメーターモードでは、ボリュームコントロールが考慮されます。

SUB/サブ

PREメーターモードでは、ORIA MiniのDSPでクロスオーバーが適用される前にSUB信号が存在しないため、サブチャンネルのメーターは表示されません。POSTメーターモードでは、サブチャンネルのメーターにはクロスオーバー後にSUBチャンネルに送られるオーディオが表示されます。

拡張メーターパネル

メーターパネルは、拡張アイコンをクリックすると独立したウィンドウに展開できるため、ミキシング中に

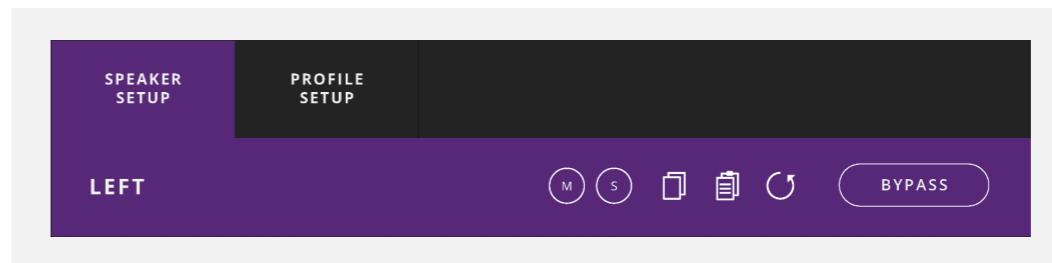
メーターを最前面に表示しておくことができます。

拡張メーターワインドウには、dBFSスケールやピーク値などの詳細情報が表示されます。



スピーカー設定

調整中のチャンネル名を表示します。



Mute/ミュート (M) - 選択したスピーカーを個別にミュートできます。

セットアップモードでキーボードの「M」キーを押すと、チャンネルをミュートできます。

Solo/ソロ (S) - 選択したスピーカーを個別にソロにできます。

セットアップモードでキーボードの「S」キーを押すと、チャンネルをソロにできます。

Copy/Paste/コピー/貼り付け - 他のスピーカーにも同じ設定を適用する場合は、「Copy/コピー」ボタンをクリックします。その後、別のチャンネルを選択して「Paste/貼り付け」ボタンをクリックすると、コピーした設定がそのチャンネルに適用されます。

また、スピーカーグループ内のすべてのスピーカーに同じ設定を適用する場合は、DSP設定をそのスピーカーグループに貼り付けることもできます。

グループパネル内のスピーカーグループを右クリックし、「Paste/貼り付け」をクリックするだけでコピーできます。

グループに貼り付けられるのは、EQとクロスオーバーDSP設定のみです。スピーカー設定の正確な時間調整のため、トリムとディレイの値は常にスピーカーごとに設定する必要があります。

Reset/リセット - リセットボタンは、チャンネルをデフォルト設定に戻します。誤って設定がリセットされないように、設定をリセットするかどうかを確認するダイアログ ボックスが表示されます。

セットアップボタン

セットアップボタンで各出力のキャリブレーション設定を手動で編集できます。

ルームセクションのスピーカーアイコンをクリックすると、そのスピーカーの出力に関するさまざまなオプションが表示されます。

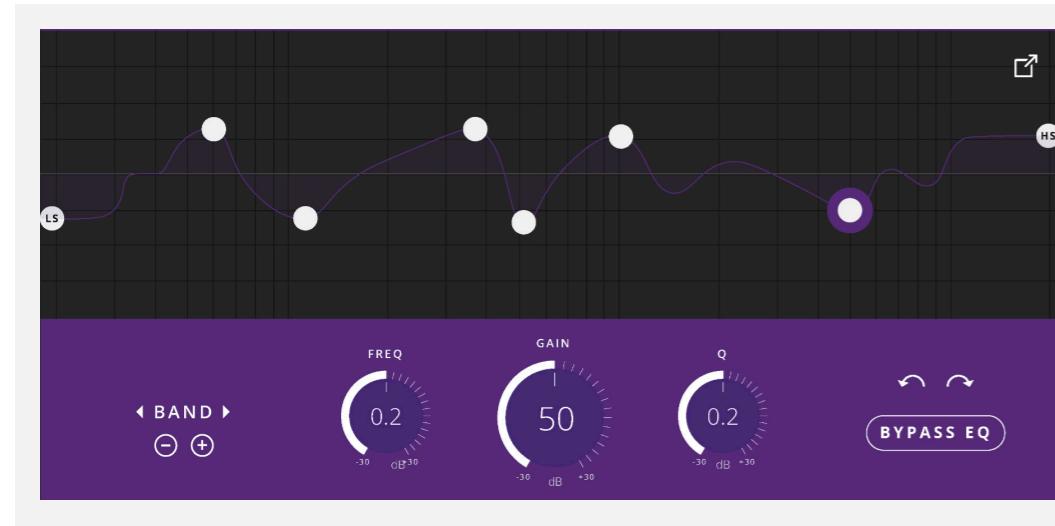
スピーカーの周囲にハイローが表示され、編集中であることを示します。

ご注意: Sonarworks SoundID Referenceからプロファイルをインポートすると、プロファイルのEQコントロールはロックされ、変更できなくなります。EQカーブを変更したい場合は、SoundID Referenceで変更してから再度インポートしてください。

EQ

マニュアルプロファイルを作成する場合、デフォルトではチャンネルごとに8つのEQポイント（6つのパラメトリックバンド、ローシェルフ、ハイシェルフ）が用意され、スピーカー出力のキャリブレーションを調整できます。ただし、グラフを見やすくするためにバンドを削除し、8つのEQポイントすべてを使用しないようにすることも可能です。

ご注意: Sonarworksプロファイルでは18のEQバンドが利用可能で、より高解像度のキャリブレーションが可能です。



EQバンドは、チャンネル設定ウィンドウの「+」と「-」アイコンを使って追加できます。「+」ボタンを押すと、グラフ上の1kHzに新しいEQポイントが追加されます。

追加したバンドの周波数、Q値、±dB値を入力するか、グラフ上でEQポイントを手動でドラッグできます。

「-」ボタンを押すと、グラフ上で現在選択されているEQポイントが削除されます。

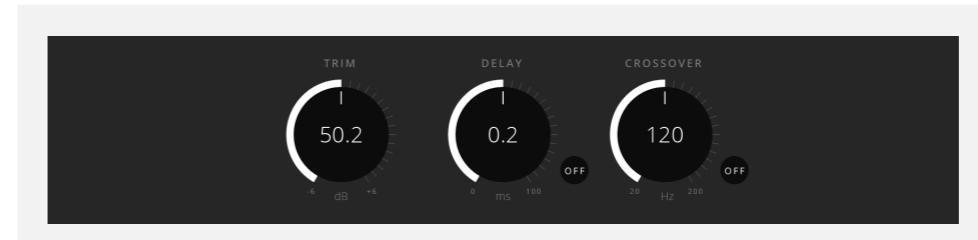
左右のBAND/バンド矢印を使って、グラフに表示されているEQバンド間を移動し、現在選択されているEQバンドを選べます。

キーボードの左右矢印キーを使ってバンド間を移動することもできます。設定を間違えた場合は、「Redo/元に戻す」と「Undo/やり直し」ボタンで元に戻すことができます。

「BYPASS EQ/バイパスEQ」ボタンを使うと、そのチャンネルのEQを無効にできます。

出力コントロール

このセクションでは、各出力の様々なオプションを個別にコントロールできます。セットアップパネルの下部には、スピーカーキャリブレーション用のコントロールが3つあります。



Trim/トリム - 最初のコントロールはトリムで、このスピーカーのレベルを0.1dB単位で最大12dBまで上下できます。このコントロールをクリックしてドラッグすると、このスピーカーのトリムを追加または削除できます。または、コントロールをダブルクリックして手動で数値を入力することもできます。

Delay/ディレイ - 2番目のコントロールはディレイで、このスピーカーからの信号を定義した時間だけ遅延させます。これは、各スピーカーからリスナーに同時に到達するスピーカー信号の時間調整に役立ち、最適なイメージングを実現します。ディレイコントロールの範囲は0ミリ秒から75ミリ秒で、0.01ミリ秒単位です。

このコントロールをクリックしてドラッグすると、このスピーカー信号にディレイが追加されます。または、コントロールをダブルクリックして手動で数値を入力します。ディレイコントロールには、ディレイのオン/オフを切り替えるための「On/オン」ボタンも別途用意されています。

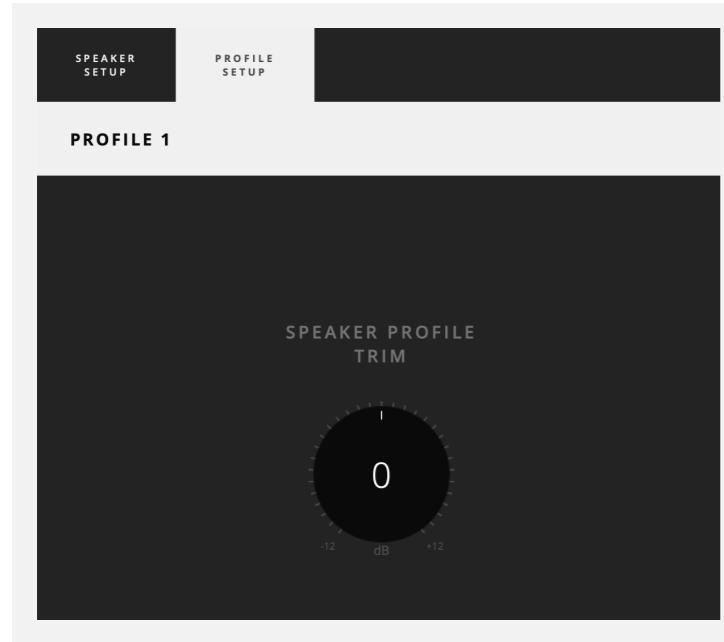
Crossover/クロスオーバー - 3番目のコントロールはクロスオーバーで、これはベースマネジメントを設定するためのものです。「On/Off/オン/オフ」ボタンをクリックして有効にすると、このスピーカーのベースマネジメントが有効になります。

つまり、このスピーカーチャンネルに送っていたオーディオ周波数のうち、コントロールに表示されている周波数よりも低い周波数は、この信号経路から削除され、代わりにサブウーファーチャンネルにリダイレクトされます。

クロスオーバーコントロールはSUBチャンネルには不要なため、SUBチャンネルには表示されません。

プロファイル設定

「Profile Setup/プロファイル設定」タブには、特定のスピーカーチャンネルだけでなく、プロファイル全体に適用される設定が含まれています。

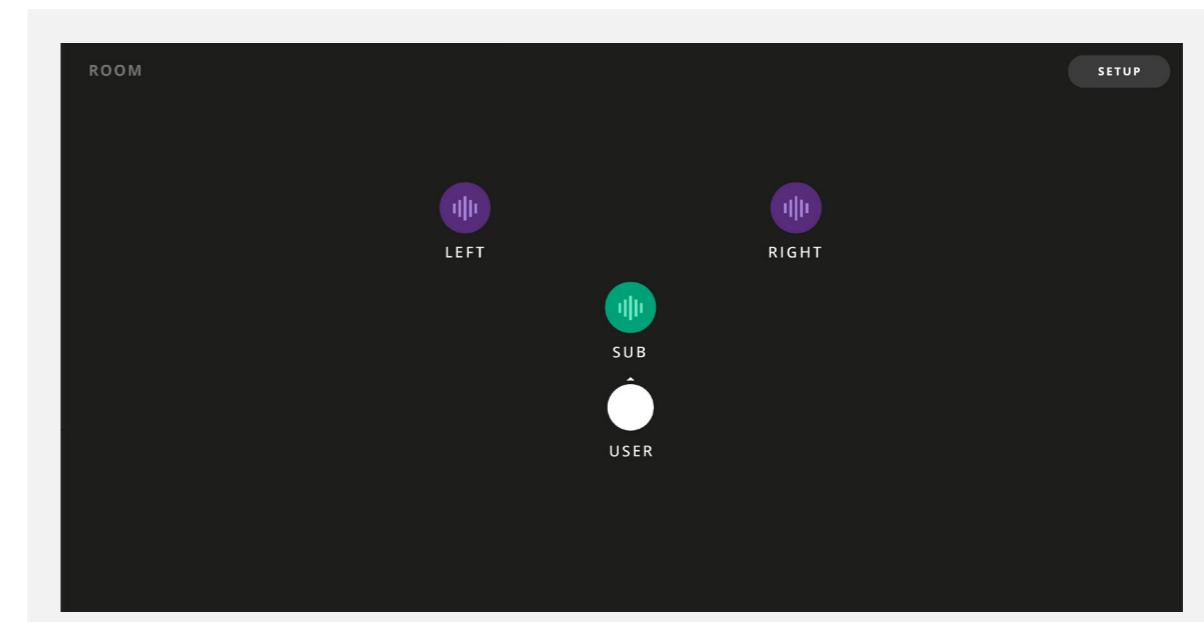


SPEAKER PROFILE TRIM/スピーカープロファイルトリム - スピーカープロファイルトリムでは、アクティブなプロファイルのボリュームトリムを指定できます。これにより、複数のプロファイルのレベルを一致させ、プロファイル間を移動する際に大きな音量変化を回避します。±12dBの調整が可能です。

Room/ルーム

このセクションでは、スピーカー構成を視覚的に表示します。白いユーザーインジケーターは、リスナーが向いている方向を示します。ユニットの色は、どのスピーカーグループに属しているかを示しています。

- フロント = 濃い紫
- サブ = 緑

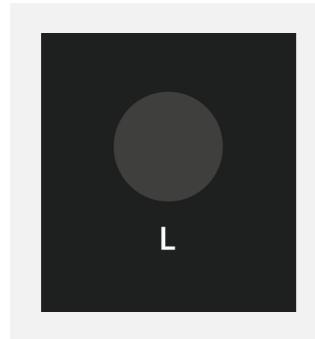


スピーカーが音声を受信している場合、小さな波形アイコンが表示されます。これは、セットアップやインストール時にどのスピーカー出力から音声が再生されているかを確認するのに役立ちます。

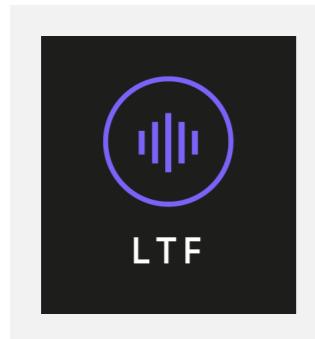
Solo and Mute/ソロとミュート

室内のスピーカーは、以下のキーボードショートカットでソロまたはミュートできます。

- Mute/ミュート - 左クリック



- Solo/ソロ - Shift + 左クリック



スピーカーがミュートされている場合、または他のスピーカーがソロになっているためにアクティブでない場合、スピーカーアイコンはグレー表示されます。スピーカーがソロになっている間は、他のすべてのスピーカーとグループのミュート機能は利用できなくなりますが、室内の他のスピーカーをソロにすることは可能です。

ソロになっているスピーカーは、「ポスト」メーターウィンドウで対応するメーターがアクティブになります。

ソロ/ミュート状態を解除するには、以下のショートカットを使用します。

- Option (MacOS) / Alt (Windows) + 左クリック

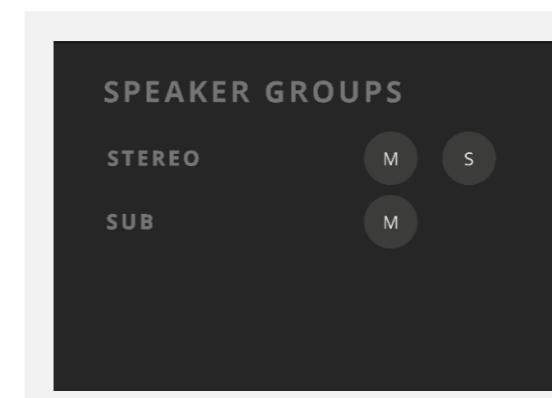
ソロになっているスピーカーをクリックすると、アクティブなソロがすべて解除されます。

ミュートされているスピーカーをクリックすると、アクティブなミュートがすべて解除されます。

Speaker Group Controls/スピーカーグループコントロール

このモニタリング機能では、ステレオスピーカーとサブスピーカーを個別にミュートまたはソロにすることができます。個々のスピーカー、またはスピーカーグループがミュートされている場合、ルームウィンドウではグレー表示されます。

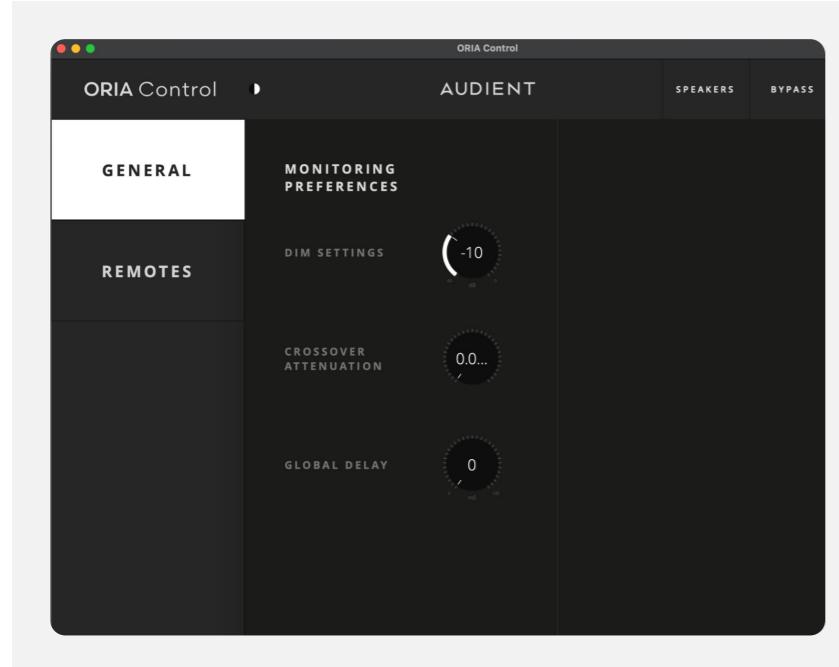
同様に、スピーカーグループがソロにされている場合、ルームウィンドウでは他のすべてのグループがグレーに表示されます。



システムパネル

ORIA Control デスクトップソフトウェアの上部にあるSystem Panel/システムパネルボタンをクリックすると、接続と制御に関するより詳細な設定が確認できます。システムパネルは2つのページに分かれています。左側のタブで切り替えることができます。

General/全般



DIM Trim/DIMトリム

DIM機能が有効になっているときに、レベルをどの程度下げるかを調整します。

Crossover Attenuation/クロスオーバーアッテネーション

このコントロールでは、クロスオーバーを経由してサブチャンネルに送られるすべての信号にグローバルアッテネーションを適用できます。

0dBから-10dBの範囲でアッテネーションを適用できます。

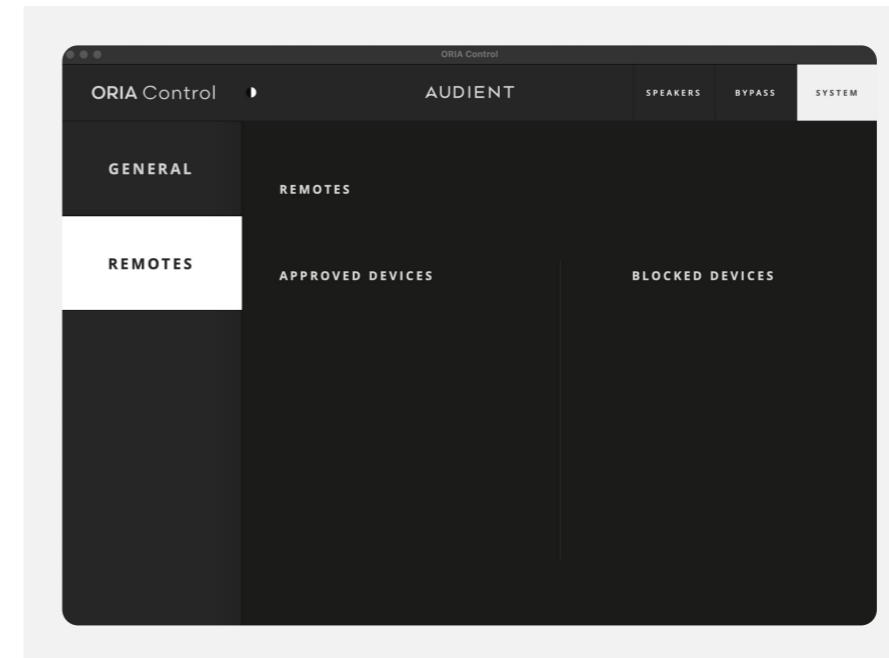
Global Delay/グローバルディレイ

ORIA Miniのすべての出力信号にタイムディレイを適用することで、オーディオをビデオファイルと簡単に同期させることができます。

Remotes/リモート

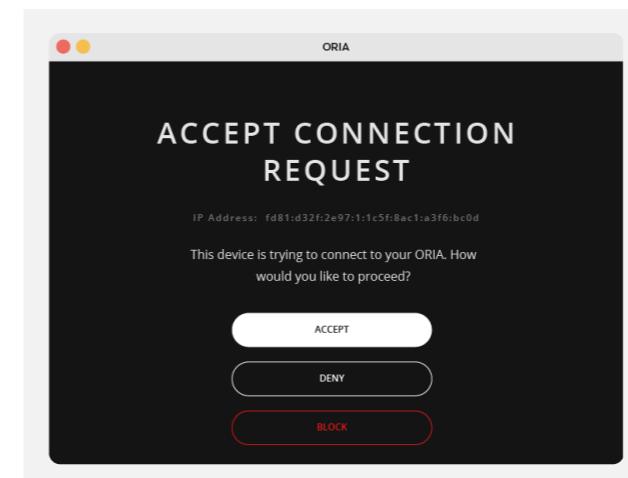
リモートページでは、ORIA Miniをリモートコントロールできるデバイスを制御できます。

ORIA Control iPadアプリとStreamdeck統合によるリモートコントロールの詳細については、このマニュアルの「**Remotes/リモート**」セクションをご覧ください。

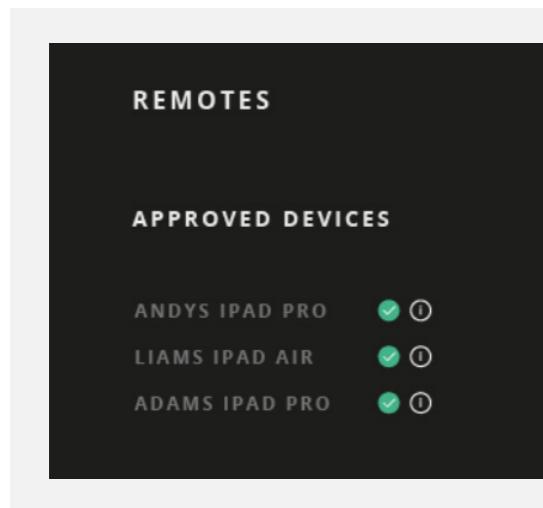


Setup/セットアップ

ORIA Control iPadアプリを実行しているiPadなどのデバイスがORIA Miniに接続しようとすると、デバイスを「Accept/許可」、「Deny/拒否」、「Block/ブロック」のいずれかで拒否できます。



リクエストを承認すると、デバイスはシステムパネルの「Remote/リモート」ページにある「Approved Devices/承認済みデバイス」リストに追加されます。承認されたデバイスは、同じネットワークで使用すると自動的にORIA Miniに接続されます。デバイスがORIA Miniに接続されると、デバイスの横に緑色のチェックマークアイコンが表示されます。



リクエストがブロックされた場合、デバイスはORIA Miniに接続されず、今後の接続リクエストもブロックされます。これは、複数の ORIA Mini が設置されている施設や、承認されたデバイス以外のリモートアクセスを制限したい教育施設などで便利です。

デバイスがブロックされると、「Blocked Device/ブロックされたデバイス」リストに追加されるため、ブロックされたデバイスを簡単に確認できます。

Unblocking Blocked Devices/承認済みデバイスの削除

Approved Devices / 承認済みデバイスリストからデバイスを削除するには、デバイスの横にある「i」アイコンをクリックします。このデバイスを「forget/削除」するかどうかを確認するポップアップ通知が表示されます。

Unblocking Blocked Devices/ブロックされたデバイスのブロック解除

同様に、ブロック済みデバイスリストからデバイスを削除するには、デバイスの横にある「i」アイコンをクリックします。このデバイスのブロックを解除するかどうかを確認するポップアップ通知が表示されます。

ブロックが解除されると、このデバイスは再び接続リクエストを送信できるようになります。

出力キャリブレーション

モニターをリスニング環境に合わせて正しくキャリブレーションするには、空間の正確な測定が重要です。付属のSonarworks測定用マイクを使用すると、この測定が可能になります。

ご注意: ORIA Miniにはマイク入力がありません。そのため、ORIA Miniに接続しているオーディオインターフェースのマイク入力の使用をお勧めします。オーディオインターフェースにマイク入力がない場合は、測定のためにマイクを接続する必要があります。

Sonarworks SoundIDリファレンス

Sonarworksとの緊密な統合により、ORIA MiniのオンボードDSPにキャリブレーションプロファイルを簡単にインポートできるため、コンピューターのCPU使用率に負担をかけずにスピーカーキャリブレーションが適用できます。

Sonarworks ライセンス

ORIA Mini で SoundID Reference を使用するには、有効な SoundID Reference ライセンスと Sonarworks ORIA Mini アドオンバンドルの両方が必要です。

ORIA Mini は、SoundID Reference ライセンス付きと単体の両方でご購入いただけます。**(国内ではこのオプションは選択できません。)** ORIA Mini を SoundID Reference なしでご購入いただいた場合は、お近くの販売店または Sonarworks ウェブサイトから直接ご購入いただけます。

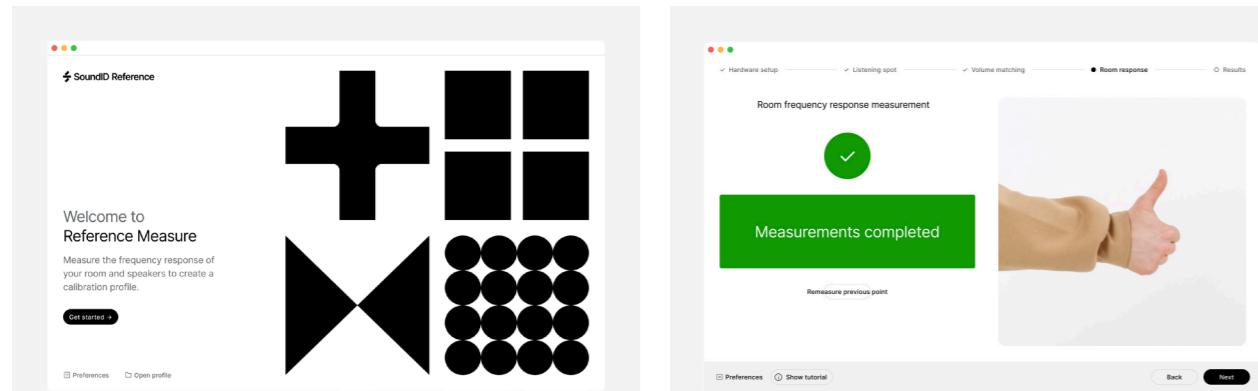
ORIA Mini アドオンライセンスバンドルを使用すると、1 台の ORIA Mini にキャリブレーションをインポートできます。SoundID Reference から ORIA Mini にキャリブレーションを初めてロードすると、ユニットのシリアル番号が取得され、Sonarworks アカウントに関連付けられます。

複数のスタジオがある施設など、複数の ORIA Mini にキャリブレーションをインポートする場合は、ユニットごとに ORIA Mini アドオンライセンスを個別にご購入いただく必要があります。

**※ 日本国内における SoundID Reference アドオンライセンスについては、
[「Sonarworks 連携に関する重要なご案内 \(P.78\)」をご覧ください。](#)**

測定プロセス

Sonarworks の測定プロセスは非常にシンプルで、正確な測定を確実に行うために、各ステップを丁寧に解説します。



プロセスの全容は、[こちら](#)でご覧いただけます

サブウーファーを使用する場合は、SoundID Referenceで測定を行う前に、ORIA Controlデスクトップソフトウェアでクロスオーバー周波数を設定することが重要です。これにより、SoundID Referenceでのステレオ測定の精度が向上します。

クロスオーバー周波数を設定するには、ORIA Controlデスクトップソフトウェアの「Room」セクションで左または右のスピーカーを選択し、「Setup」ボタンをクリックします。その後、「Setup」パネルの右下にあるコントロールを使用してクロスオーバー周波数を調整できます。



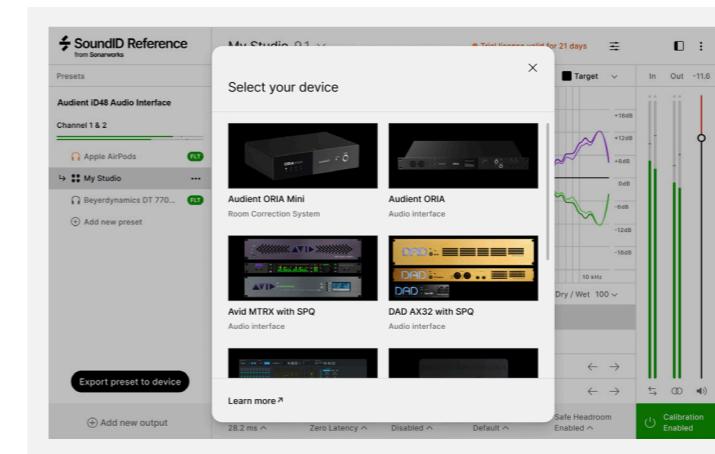
使用するクロスオーバー周波数は、スピーカーとサブウーファーの周波数特性によって異なります。使用するクロスオーバー周波数が不明な場合は、スピーカー/サブウーファーのメーカーにお問い合わせください。

測定後にクロスオーバー周波数を調整すると、キャリブレーションに影響が出るため、再測定が必要になります。そのため、最初の測定を行う前に、クロスオーバー周波数が正しく設定されていることを確認することをお勧めします。

ORIA Miniへのキャリブレーションインポート

測定後、結果を SoundID Reference にインポートできます。ここで、ORIA Mini ハードウェアにアップロードできるキャリブレーションプロファイルを作成できます。

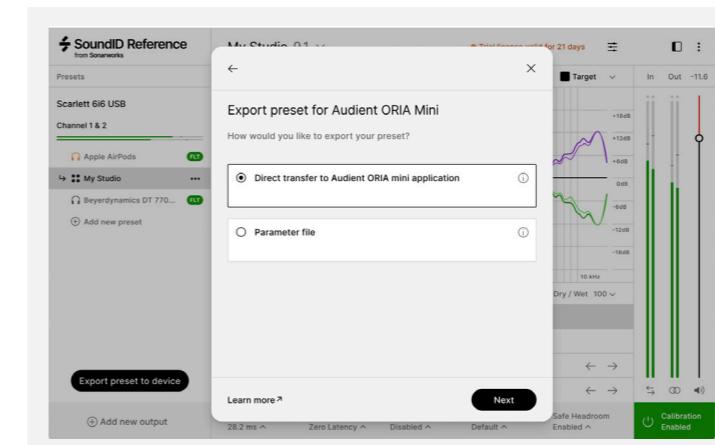
SoundID Reference ソフトウェアで、「プリセットをデバイスにエクスポート」をクリックし、デバイスリストから ORIA Mini を選択します。



まず、エクスポートする前にキャリブレーションカーブを調整できます。

ここでは、Dolby Filmカーブ、Dolby Musicカーブなど、作業中のコンテンツに合わせてEQカーブを追加できます。また、独自のカスタム調整を行うことも可能です。

ORIA MiniがPCに接続されている場合は、キャリブレーションデータをORIA Miniに直接転送できます。そうでない場合は、パラメーターファイルをエクスポートし、後でORIA Controlデスクトップソフトウェアを使用してORIA Miniにインポートできます。

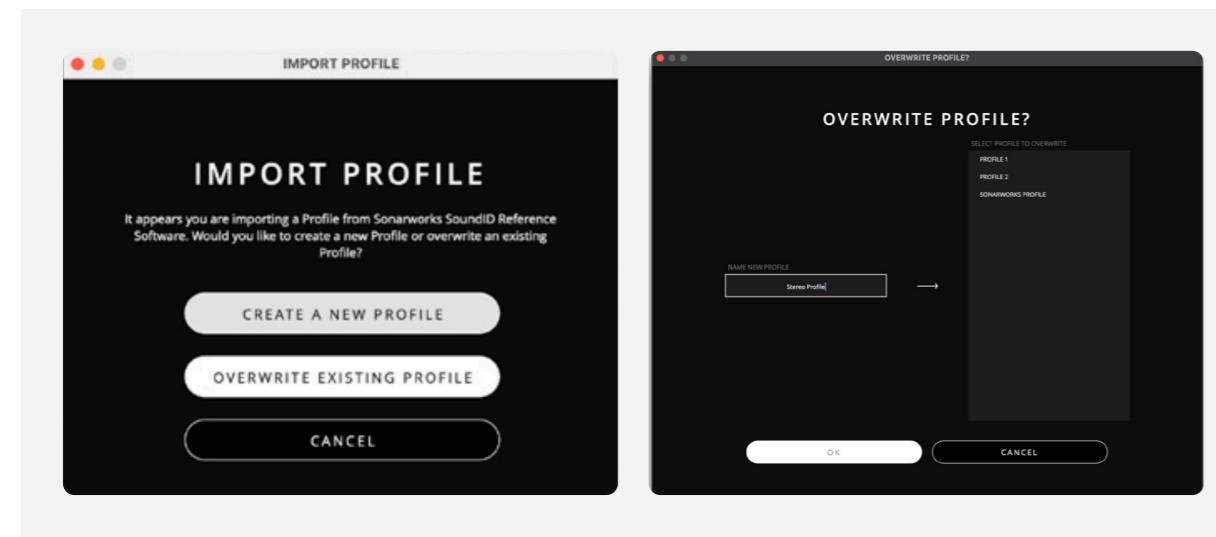


ご注意: ORIA Miniへの最初の転送は、ORIA Miniデバイスを接続した状態で直接行う必要があります。これにより、ORIA Miniのシリアル番号が読み取られ、Sonarworksアカウントに関連付けられます。その後のエクスポートは、直接行うことや、パラメーターファイルとして行うこともできます。

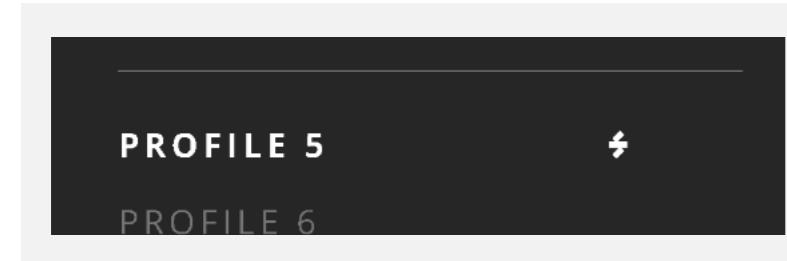
ダイレクトインポート

ORIA Miniへの直接転送を選択すると、ORIA Controlデスクトップソフトウェアが起動し、新しいプロファイルを作成するか、既存のプロファイルを上書きするか尋ねられます。

新しいプロファイルを作成する場合は、プロファイル名を入力するように求められます。既存のOVERWRITE PROFILE/プロファイルを上書きする場合は、上書き可能なプロファイルを選択するように求められます。



新しいプロファイルがプロファイルパネルに表示されます。
SoundID Referenceで作成されたプロファイルには、プロファイル名の横にSonarworksの「S」が表示されます。



パラメータファイルによるインポート

パラメータファイルをエクスポートした場合は、ORIA Controlデスクトップソフトウェアを開き、メニューから「File/ファイル」>「Import SoundID Profile /SoundIDプロファイルのインポート」をクリックして、ORIA Miniに簡単にインポートできます。

Finderまたはファイルエクスプローラーのウィンドウが開き、ファイルを選択できるようになります。その後、直接転送と同様に、新しいプロファイルを作成するか、既存のプロファイルを上書きするかを選択できます。

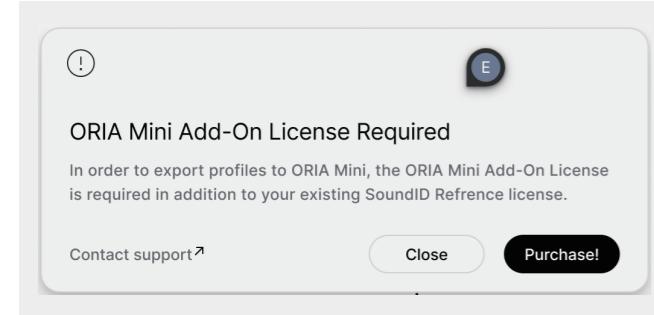
ご注意: ORIA MiniでSoundIDプロファイルを使用する場合は、SoundID Referenceソフトウェアを閉じるか無効にしてください。そうしないと、オーディオが二重に処理され、キャリブレーションの精度が低下する可能性があります。

Sonarworks SoundID Referenceのトラブルシューティング

ORIA Miniアドオンライセンスが必要です

SoundID Referenceを既にお持ちのユーザー様は、Sonarworksから別途「アドオンデジタルライセンスキーキー」をご購入いただけます。これにより、キャリブレーションプロファイルをORIA Miniハードウェアに直接エクスポートできます。

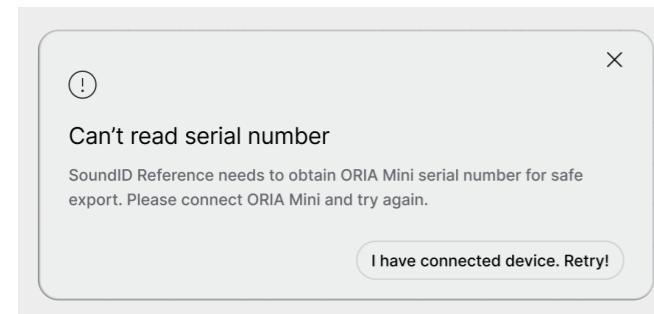
有効なORIA Miniアドオンライセンス（デジタルキー）をお持ちでない状態でSoundID ReferenceからORIA Miniにプロファイルをエクスポートしようとすると、エクスポートを続行する前にライセンスの購入を求めるメッセージが表示されます。



ご注意: ORIA Miniアドオンライセンス（デジタルキー）は、ORIA Mini + SoundID ReferenceコンプリートバンドルとORIA Mini + SoundID Referenceアドオンバンドルの両方に含まれています。
既にライセンスをお持ちの場合は、Sonarworksサポートチームにお問い合わせください。

シリアルナンバーが読み取れません

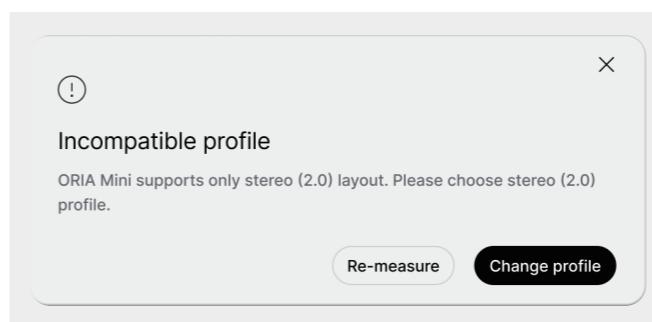
ORIA Miniにプロファイルをエクスポートするには、SoundID ReferenceがORIA Miniからシリアル#を読み取る必要があります。シリアル#が読み取れない場合は、エラーメッセージが表示されます。



それでも問題が解決しない場合は、Hotone Japanにお問い合わせください。

2.1chプロファイルをエクスポートできません

SoundID Reference for Multichannelをご使用の場合、2.1chの測定データをORIA Miniにエクスポートすることはできませんのでご注意ください。
クロスオーバー設定とサブウーファーのキャリブレーションは手動で行う必要があります。



マニュアルキャリブレーション

SoundID Referenceを使用したくない場合は、サードパーティの測定ソフトウェアを代わりに使用できます。付属のSonarworks測定用マイクを使用することも、お好みであればお持ちのリファレンスマイクを使用することもできます。

サードパーティのソフトウェアを使用する場合、設定をORIA Miniに直接インポートすることはできません。スピーカーのキャリブレーション設定は手動で入力する必要があります。サードパーティのソフトウェアには、各チャンネルに適用できるEQカーブ、トリム、ディレイ設定が用意されています。

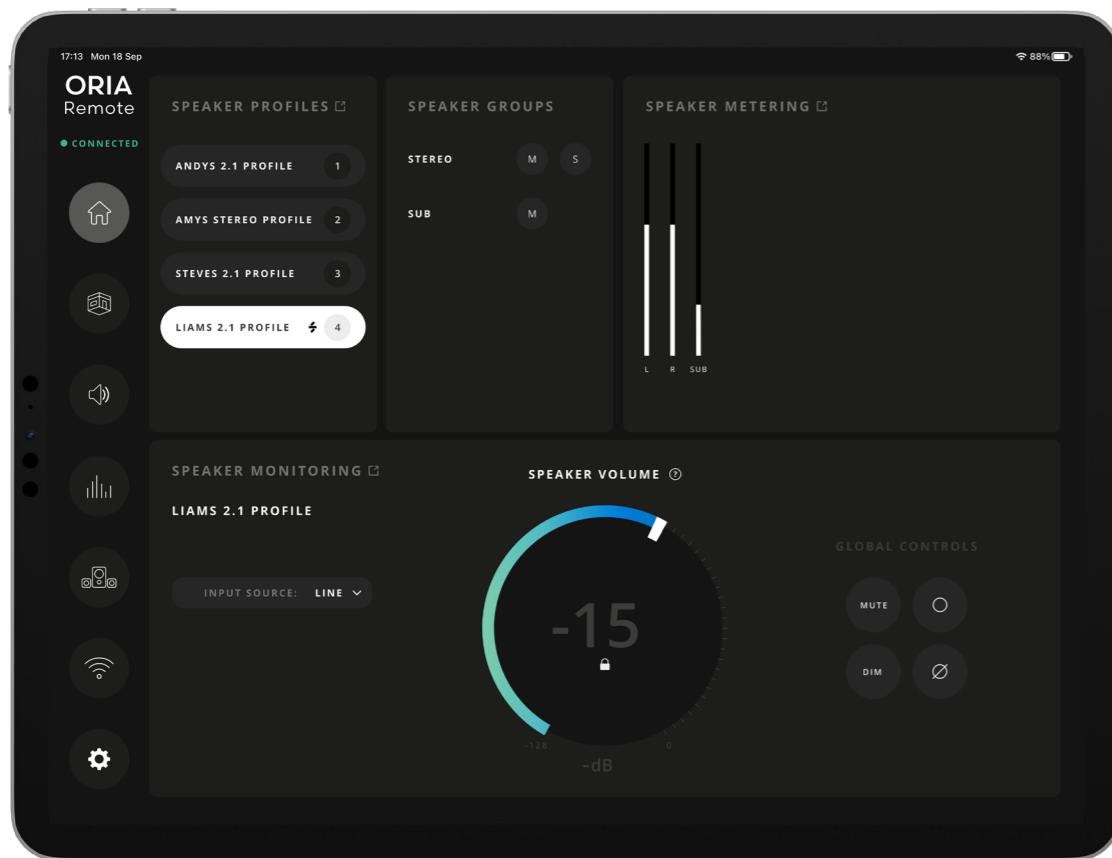
これらの設定は、このマニュアルの「Setup Menu/セットアップメニュー」セクションで前述したように、各チャンネルに手動で入力できます。手動キャリブレーションでは、各スピーカーチャンネルで以下の項目を調整できます。

- EQ (最大8バンド、 $\pm 12\text{dB} \times 6$ 、20Hz～20kHz + ハイシェルフおよびローチェルフ)
- 出力トリム ($\pm 6\text{dB}$)
- ディレイタイム (0～75ms)
- クロスオーバーポイント (30Hz～500Hz)

コントロール

ORIAリモートiPadアプリ

ORIA Minis iPadアプリがあれば、どんな時も逃しません。タッチ操作で、ORIA Minisのすべてのコントロール機能に、1つの集中コントロールハブからリモートアクセスできます。レベル調整、スピーカーの試聴、プロファイルの切り替え、メーターのモニタリングなど、すべてデスクトップから直接操作できます。複雑な操作は不要で、正確なコントロールが可能です。



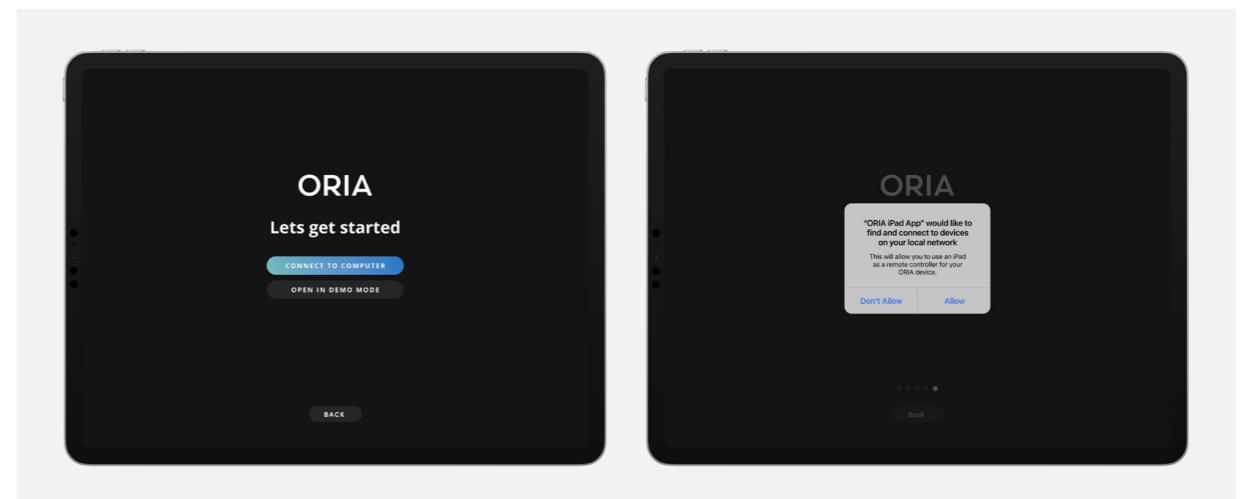
Apple App Store から無料でダウンロードできます。



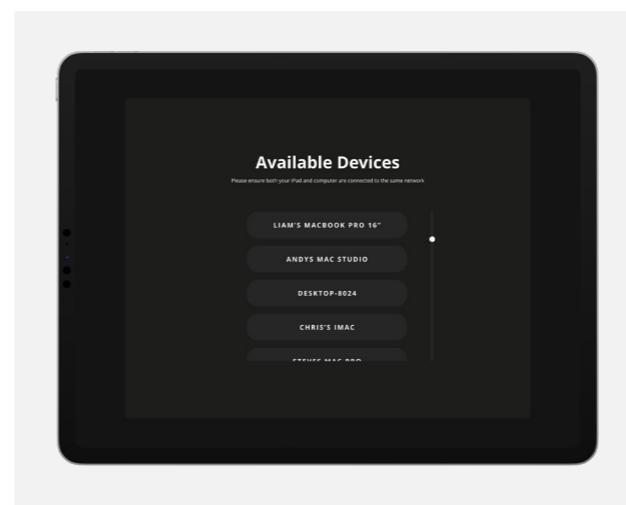
初期設定

ORIA MiniをUSB経由でコンピューターに接続し、ORIAデスクトップソフトウェアを起動したら、ORIA Remote iPadアプリに接続してORIA Miniをタッチ操作できます。まず、Apple App Storeを開き、「ORIA Remote」を検索してデバイスにインストールしてください。

アプリを開くと、アプリケーションの機能を説明する簡単なガイドが表示されます。

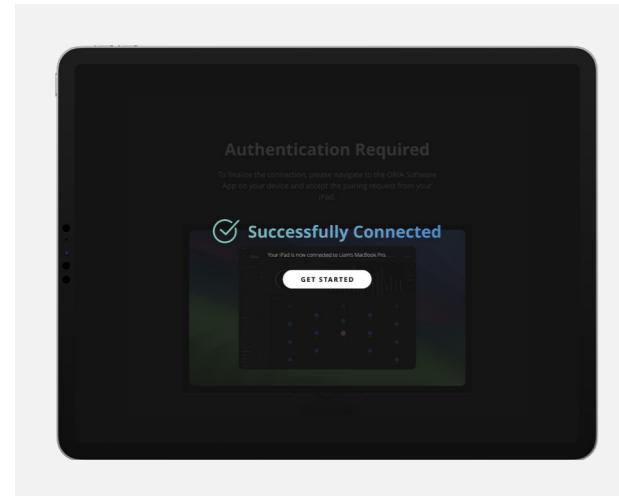


この手順の一環として、iPadに名前を付けるよう求められます。これは、ORIA Controlデスクトップソフトウェアに表示される名前です。また、ORIA Remote iPadアプリがローカルネットワーク上のデバイスを検出し、接続できるように許可する必要があります。



ORIA Remote iPadアプリは、Wi-Fi ではなくイーサネット経由で ORIA Mini ホストコンピューターに接続している場合でも、接続できます。ただし、すべてのデバイスが同じネットワークに接続されていることが条件となります。

その後、このマニュアルの「Remotes/リモート」セクションに記載されている手順に従って、ORIA Controlデスクトップソフトウェアで接続を許可する必要があります。接続が承認されると、「Successfully Connected/接続に成功しました」というメッセージが表示されます。これで、ORIA Remote iPadアプリを使用してORIA Miniを操作できるようになります。

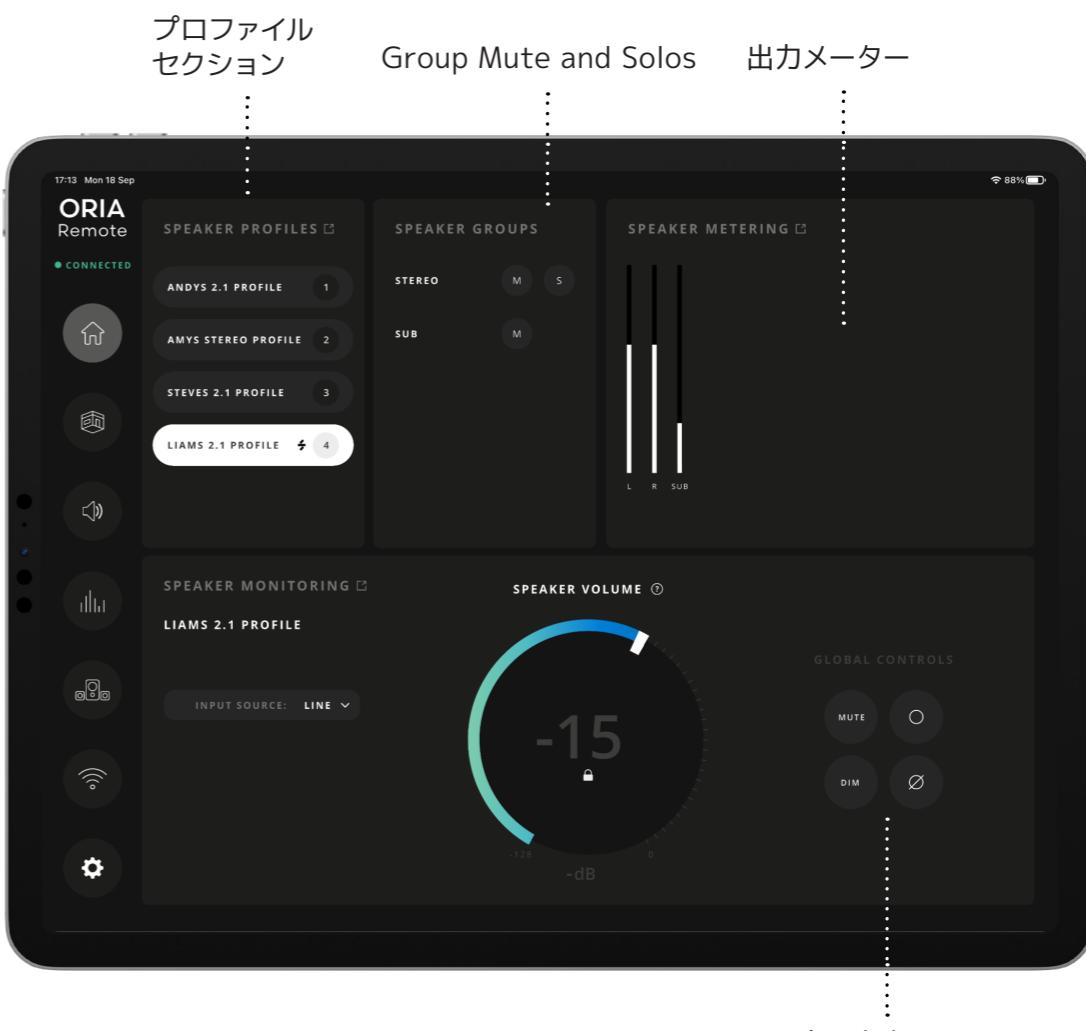


アプリケーションの概要

接続すると、ORIA Remote iPad アプリには複数のページがあり、それらを切り替えて ORIA Mini ハードウェアのさまざまな機能を制御できます。これらのページは、左側のサイドバーメニューのアイコンを使って切り替えることができます。以下に各ページの概要を示します。

Home/ホーム -

ホームページは ORIA Remote iPad アプリのメインページであり、ORIA Mini の主要なコントロールの概要が表示されます。これらの機能の概要については、次のページをご覧ください。



プロファイル選択/ Profile Selection

ここでは、ORIA Controlデスクトップソフトウェアで作成した様々なプロファイルを選択できます。プロファイルをタップするだけで、現在アクティブなプロファイルになります。

Group Mute and Solo/グループミュートとソロ

これらのコントロールで、ステレオチャンネルまたはサブチャンネルをミュートしたり、ステレオチャンネルをソロにしたりできます。

Output Metering/出力メーター

メーターは、ORIA Miniの出力の現信号レベルを表示します。タイトル横の展開アイコンを押すとメーターを拡大表示でき、より高解像度のメーターが表示できます。

Monitoring/モニタリング

モニタリングセクションには、入力ソース、メインボリュームコントロール、モニターコントロールの3つの主要なコントロールがあります。

Input source/入力ソース

ここでは、ORIA Miniがオーディオ信号を入力する入力ソース（ライン入力またはS/PDIF入力）を調整できます。

Main Volume Control/メインボリュームコントロール

ORIA Miniからスピーカーへの全体的な出力レベルを調整します。

誤って音量を調整してしまうのを防ぐため、このコントロールはデフォルトでロックされています。

コントロールをタップするとロックが解除され、レベルを調整できるようになります。

画面上の他の場所をタップすると、ボリュームコントロールは自動的にロックされます。この自動ロックの動作は、設定メニューでオン/オフを切り替えることができます。

Monitor Controls/モニターコントロール

ここでは、ORIA Miniで利用可能なグローバルモニターコントロールを使用できます。これらのコントロールは、ミュート、モノラル、ディム、フェーズです。これらのコントロールの詳細については、このマニュアルのORIA Controlデスクトップソフトウェアのモニタリングセクションをご覧ください。

Room/ルーム -

ルームページでは、スピーカーのセットアップを視覚的に確認しながら、スピーカーごとにセットアップがコントロールできます。



Profile Selection/プロファイル選択

このセクションは、ホームページのプロファイル選択セクションと同じです。

Group Mute and Solo/グループミュートとソロ

同様に、このセクションは、ホームページのグループミュートとソロセクションと同じです。

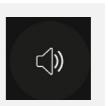
Room/ルーム

このセクションでは、ORIA Mini の個々のスピーカー出力を簡単にミュートまたはソロにすることができます。

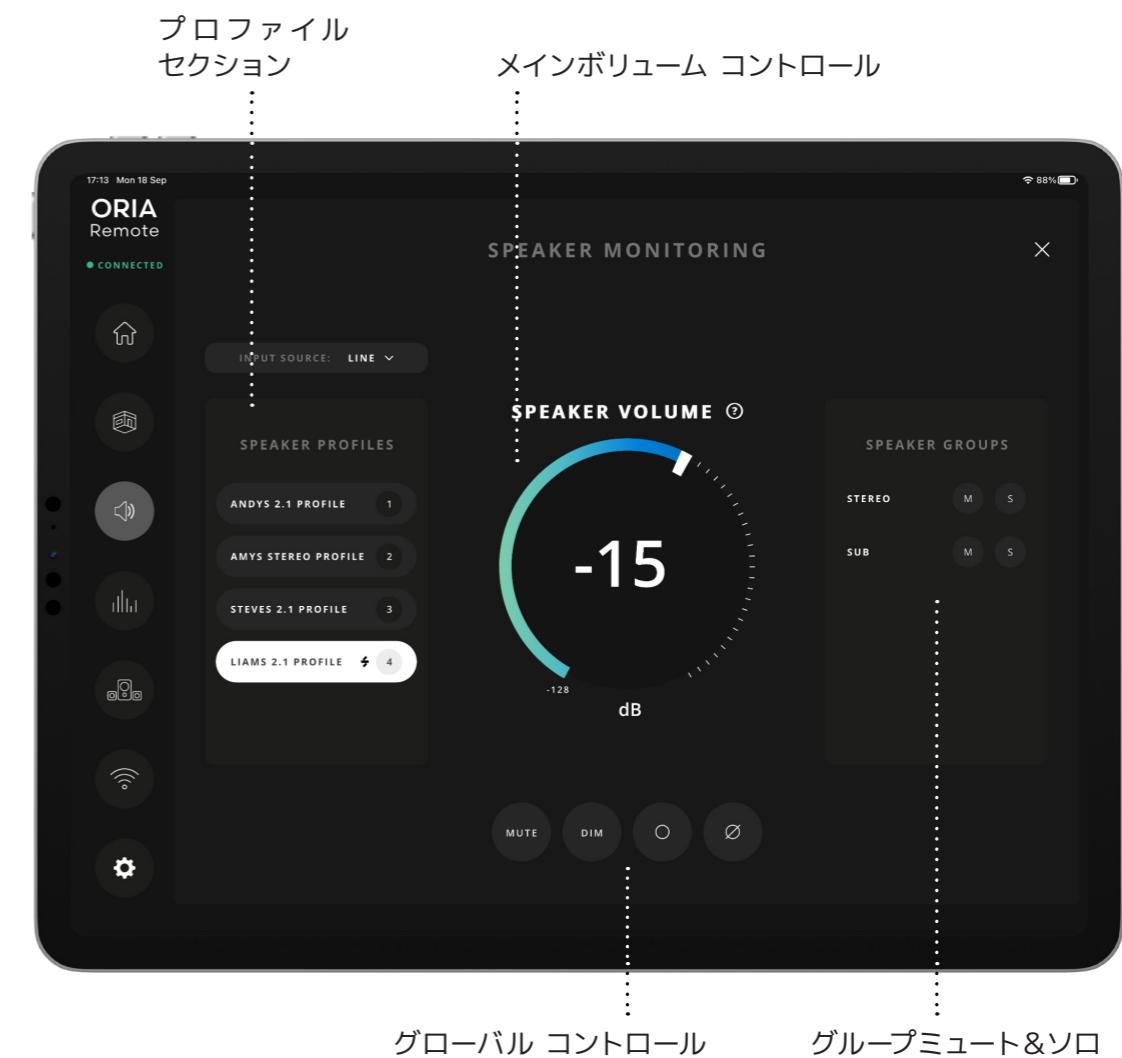
スピーカーアイコンのいずれかをタップするとその出力がミュートされ、もう一度タップするとミュートが解除されます。スピーカー出力をソロにするには、スピーカーアイコンのいずれかを長押ししてからタップするとソロが解除されます。

チャンネルがソロまたはミュートされている場合、「Clear All Solo/すべてのソロを解除」または「Clear all Mute/すべてのミュートを解除」ボタンが表示されます。これをタップすると、すべてのソロまたはミュートが解除され、全チャンネルの再生状態に戻ります。

Monitoring/モニタリング -

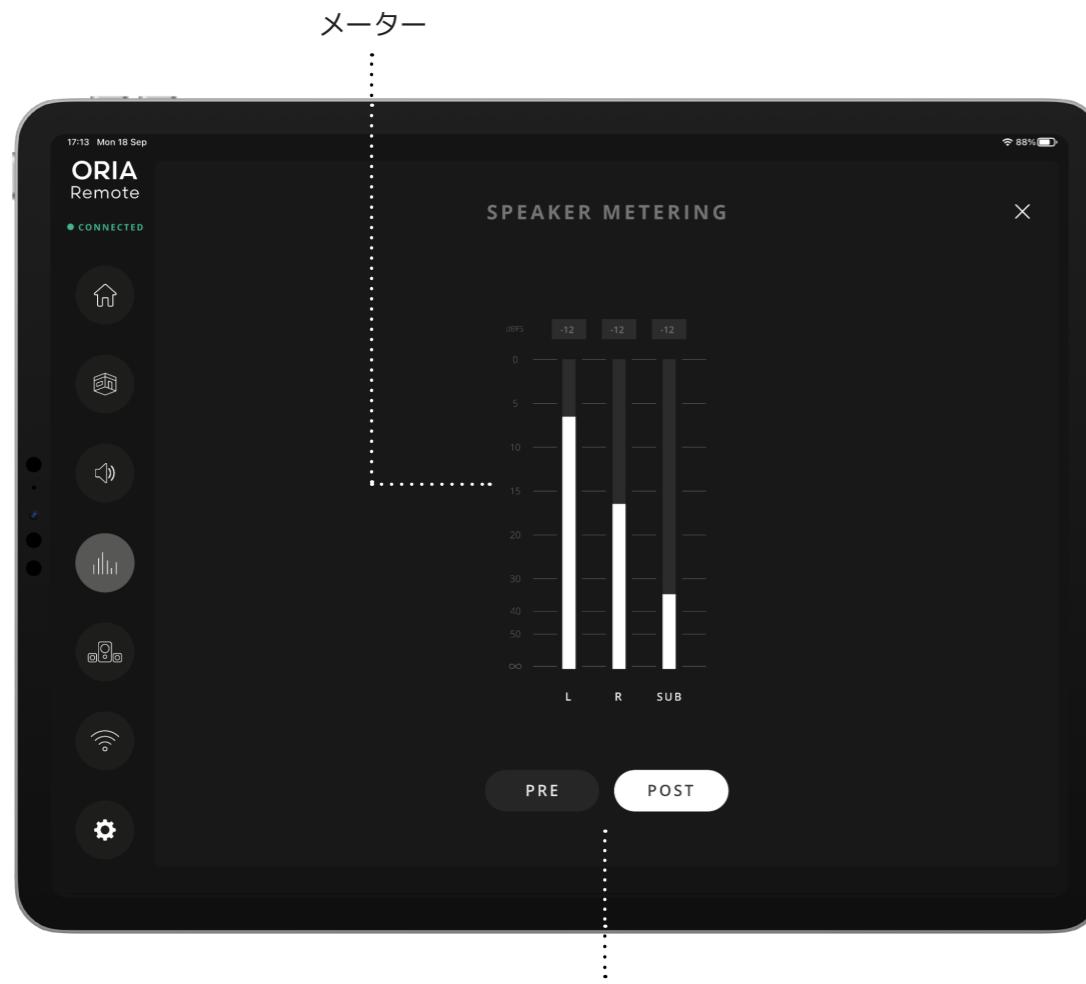


モニターページには、ホーム画面にあるモニターセクションの拡大表示が表示されます。



Metering/メータリング -

メータリングページでは、ORIA Mini のすべての出力レベルを高解像度でモニタリングできます。



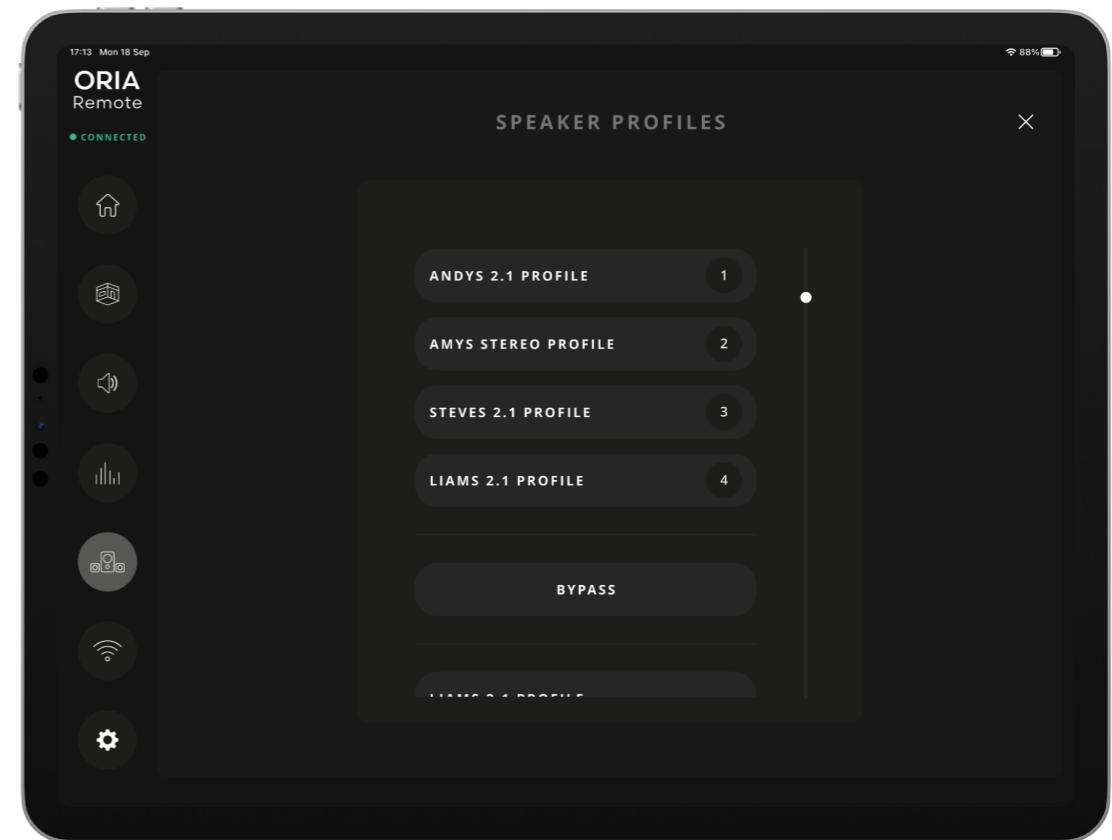
プリ/ポスト コントロール

プリ/ポスト コントロール

デフォルトでは「PRE」が選択されており、DAW出力からORIA Controlデスクトップソフトウェアに
入力される信号が表示されます。「POST」は、スピーカーキャリブレーション処理後のORIA Miniから
出力される信号を表示します。「POST」メーターモードでは、ボリュームコントロールも考慮されます。

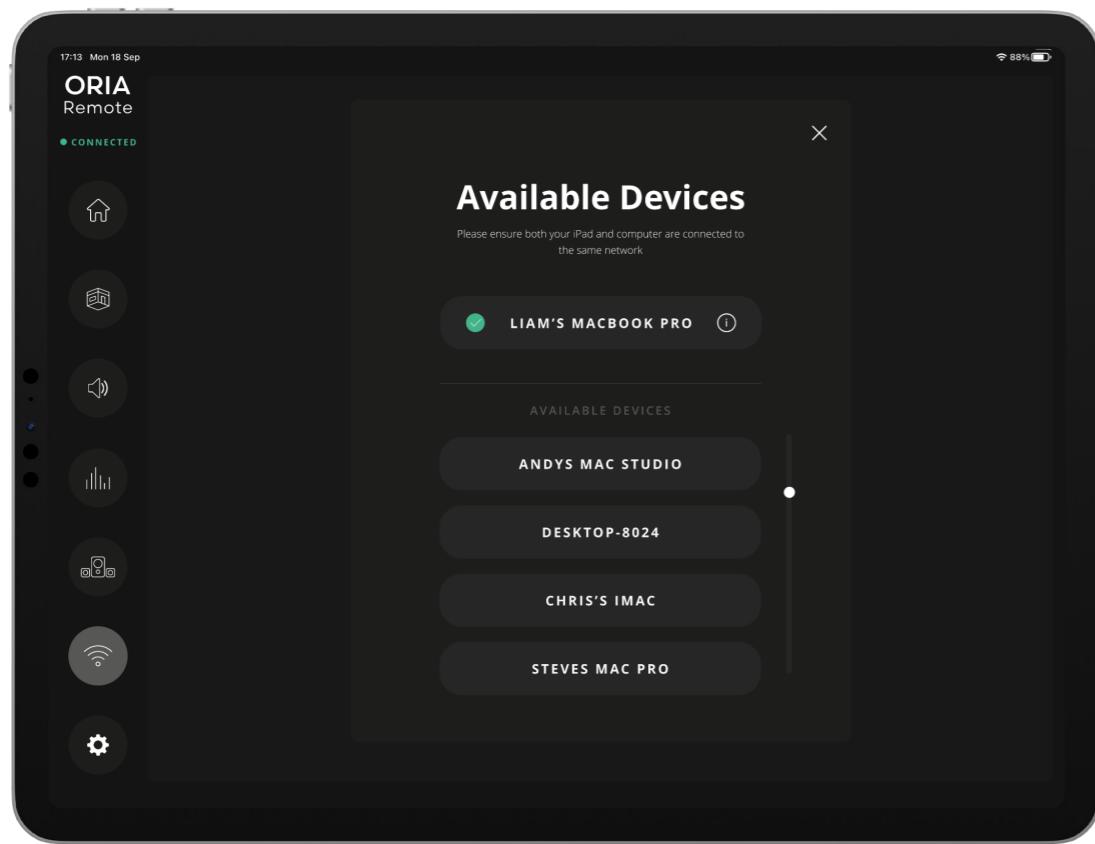
Profile Selection /プロファイル選択 -

プロファイル選択ページは、他のタブにあるプロファイル選択セクションの拡張版であり、
現在アクティブなプロファイルと、4つのお気に入りスロットに割り当てられているプロファイル
以外のプロファイルを選択できます。



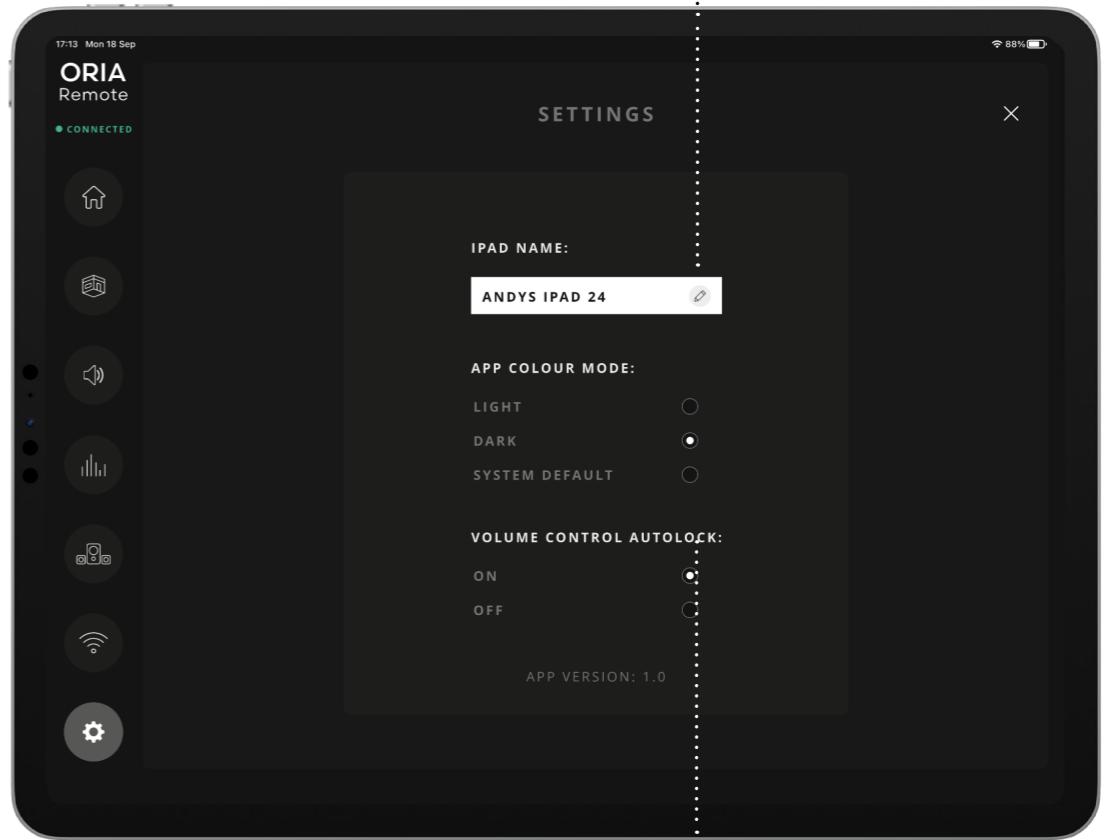
Connection/接続 -

接続ページは、ORIA Remote iPad アプリを ORIA Mini に再接続する必要がある場合、または現在接続されているデバイスを変更する場合に使用します。



Settings/設定 -

アプリのカラーモード



音量コントロールの自動ロック

iPad Name/iPad名

ORIA Controlデスクトップソフトウェアに接続した際のiPadの表示モードを変更します。

App Colour Mode/アプリのカラーモード

スタジオ環境に合わせて、ORIA Remote iPadアプリの表示モードをダークモードまたはライトモードに設定できます。

また、これをシステムのデフォルトに設定すると、ORIA Remote iPadアプリはiPadのグローバル設定に自動的に適応します。これは、iPadが時間帯に応じてライトモードとダークモードを自動的に切り替えるように設定されている場合に便利です。

ボリュームコントロールのオートロック

このコントロールは、メインボリュームコントロールのロック動作を変更します。

自動ロックを有効にすると、ボリュームスライダーの外側をタップすると、音量レベルを調整した後に自動的に再ロックされます。

オートロックを無効にすると、ボリュームコントロールは音量調整後もロック解除されたままになり、ボリュームコントロールを再度タップしてロックするまでロック解除された状態になります。

Stream Deck

ORIA MinisとStream Deckの連携により、Stream DeckファミリーのデバイスからORIA Miniのほとんどの機能をリモートコントロールできます。つまり、ORIA Miniをデスクトップにインストールしたままでも、スピーカーのスイートスポットからモニタリングを完全にコントロールできます。



[Elgato Marketplace](#) から無料でダウンロードできます。



Installation/インストール

ORIA Control Desktop ソフトウェア V1.3 以降をご利用の場合、ORIA Control Stream Deck プラグインは ORIA ソフトウェインストーラーに含まれています。ORIA Control Desktop ソフトウェアがシステムに Elgato Stream Deck ソフトウェアがインストールされていることを検出すると、ORIA Control プラグインのインストールを促すメッセージが表示されます。

Elgato Stream Deck ソフトウェアがインストールされていない場合は、ORIA Control プラグインは Elgato Stream Deck Marketplace から入手できます。インストールするには、Elgato アカウントにログインしていることを確認し、「Get/入手」をクリックしてください。ORIA Control プラグインが Elgato Stream Deck ソフトウェアのコントロールパネルに追加されます。

Profiles/プロファイル

迅速なセットアップを可能にするため、ORIAコントロールプラグインには、一般的なStream Deck デバイス用のプロファイルが含まれています。これにより、Stream Deckデバイスに必要なすべてのコントロールが自動的に読み込まれるため、すぐにORIA MiniでStream Deckを使い始めることができます。

もちろん、必要に応じて独自のカスタムプロファイルを作成することもできます。これについては、以下の「Actions/アクション」セクションで詳しく説明します。

重要事項：

Stream Deckソフトウェアの仕組み上、ORIAコントロールプラグインをインストールすると、現在開いているStream Deckデバイスのプロファイルのみがインストールされます。複数のStream Deckデバイスを使用する場合は、[Elgato Marketplace \(<https://marketplace.elgato.com/stream-deck/profiles>\)](https://marketplace.elgato.com/stream-deck/profiles) から必要なプロファイルを簡単にダウンロードできます。

以下のStreamdeckデバイス用のプロファイルが利用可能です。

- Stream Deck MKII
- Stream Deck +
- Stream Deck XL
- Stream Deck Mini
- Stream Deck Neo
- Stream Deck Mobile

Actions/アクション

ORIA Miniコントロールを含む独自のカスタムプロファイルを作成したい場合は、ORIAコントロールプラグインに含まれる様々なORIAコントロールアクションを使用できます。以下は、各アクションとその使用方法の簡単な説明です。

Volume/ボリューム -

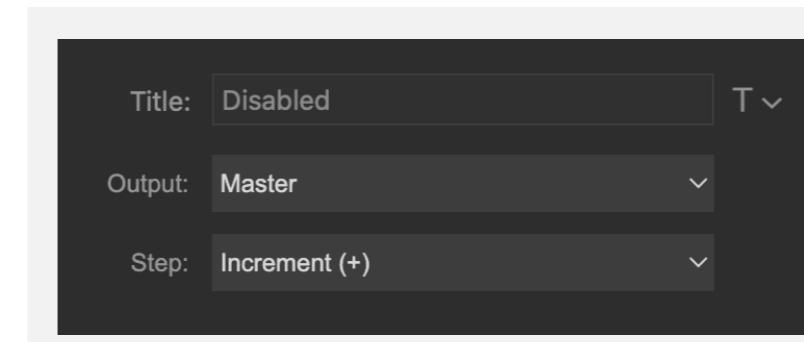


ボリュームボタンでORIA Miniの出力ボリュームを調整できます。

ダイヤルコントロールのないStreamDeckでは、通常2つのボリュームボタンがあり、1つはボリュームを上げ、もう1つはボリュームを下げることができます。ボタンは1回押すとボリュームを増減し、長押しするとボリュームを大きく調整できます。

Stream Deck +では、ボリューム操作を4つのダイヤルのいずれかに割り当てることもできます。ダイヤルは標準的な回転式ボリュームコントロールとして機能しますが、ダイヤルを押し下げることでORIA Miniの出力をミュート/ミュート解除することもできます。

コントロール：

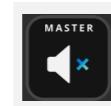


Output/出力 - ボリュームアクションで調整する出力を設定します。

Step/ステップ - ボタンで音量を上げるか下げるかを調整します。

(このオプションは、Stream Deck + のダイヤルと併用する場合は使用できません。)

Mute/ミュート -



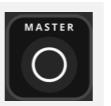
ミュートはORIA Miniの出力を有効/無効にします。

コントロール:

Title: T▼
Output:

Output/出力 - ミュートアクションの対象となる出力を設定します。

Mono/モノ -



Mono は ORIA Mini のステレオ出力を 1 つのモノラル信号にまとめ、ミックスのモノラル互換性を確認できます。

Mono アクションには追加のコントロールはありません。

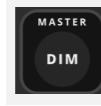
Polarity/極性 -



Polarityは、ステレオ左チャンネルの位相を反転させ、左右のチャンネルを加算します。これにより、センターにパンされている音はキャンセルされ、ミックスの「サイド」部分を聞くことができます。

Polarityアクションには追加のコントロールはありません。

Dim/ディム -



DIMアクションは、ORIA Miniの出力をあらかじめ設定された量だけ下げます。再生を一時停止したりミュートしたりすることなく、アーティストと素早くコミュニケーションを取るのに最適です。

コントロール:

Title: T▼
Output:

Output/出力 - Dimアクションで調整する出力を設定します。

Input Source/入力ソース -



入力ソースでは、ORIA Mini で現在使用している入力ソース（ラインまたは S/PDIF）を選択できます。

コントロール:

Title: T▼
Action:
Source:

Action/アクション - このコントロールには、「Step Through/ステップスルー」と「Set To/設定」の 2 つのオプションがあります。「Step Through/ステップスルー」では、様々な入力オプションを順番に切り替えます。「Set To/設定」では、このボタンを押したときに選択される入力ソースを指定します。

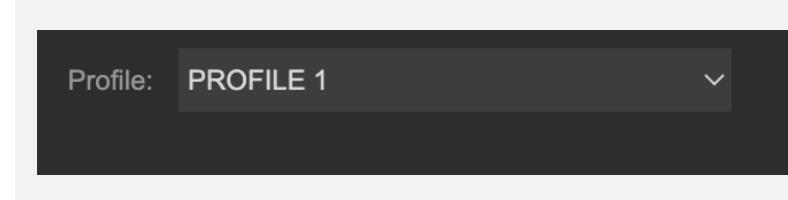
Step/ステップ - アクションとして「Step Through/ステップスルー」を選択した場合、入力ソースを前後に移動する操作を選択できます。

Source/ソース - アクションとして「Set To/設定」を選択した場合、このボタンを押したときに選択されるソースを設定できます。

Profile/プロファイル -

プロファイルボタンでは、ORIA Miniで現在アクティブなプロファイルを選択できます。ORIA Control Stream Deckプラグインでは、上位4つの「Favourite/お気に入り」プロファイルのみを使用できます。プロファイルがアクティブな場合、ボタンは青いグラデーションで表示されます。

コントロール:

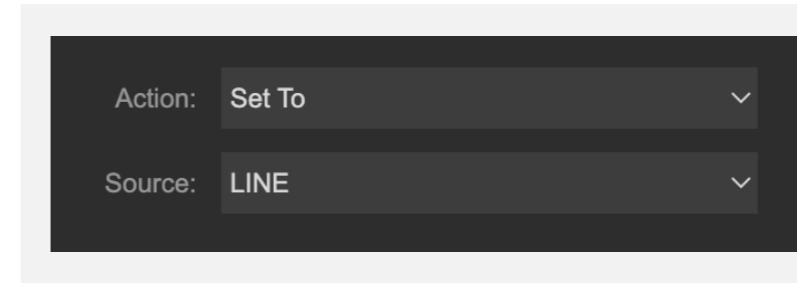


Profile/プロファイル - 4つのお気に入りプロファイルから、このボタンに割り当てるプロファイルを選択できます。

Group/グループ -

グループアクションでは、ORIA Miniの2つのスピーカーグループ（ステレオとサブウーファー）をソロまたはミュートできます。

コントロール:



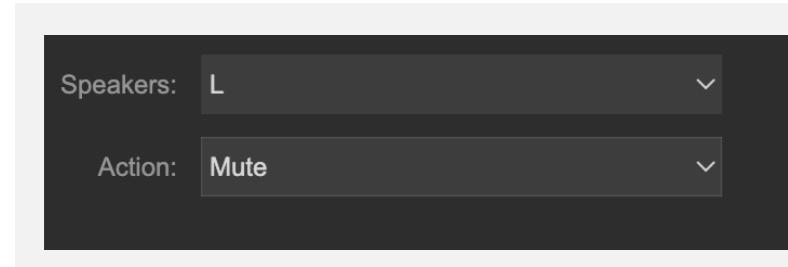
Group/グループ - このボタンでコントロールするスピーカーグループを選択します。

Action/アクション - グループアクションとして「Cut/カット」または「Solo/ソロ」を選択できます。

Speaker/スピーカー -

グループアクションでは、ORIA Miniの特定のスピーカー出力 (L、R、またはSUB) をソロまたはミュートできます。

コントロール:



Speakers/スピーカー - このボタンで制御するスピーカー出力を選択できます。

Action/アクション - スピーカーのアクションとして「Cut/カット」または「Solo/ソロ」を選択できます。

トラブルシューティング

ボタンを押すと黄色の警告が表示される

ボタンを押すと警告が表示される場合、Stream Deck が ORIA コントロールアプリケーションと通信できないことを示しています。

まず、ORIA コントロールデスクトップソフトウェアが開いていることを確認してください。開いていない場合は、アプリケーションフォルダまたはスタートメニューから開いてください。ORIA コントロールデスクトップソフトウェアが開いている場合は、アプリケーションを終了して再度開いてください。これで、StreamDeckコントロールソフトウェアがORIA Miniとの通信を再確立できます。

Stream Deckデバイスのプロファイルがインストールされていなかった

Stream Deck Controlソフトウェアは、インストール時に接続され、フォーカスされている Stream Deck デバイスのプロファイルのみをインストールします。例えば、Stream Deck+ が接続され、Stream Deck Control アプリで開いている場合、ORIA Control プラグインをインストールすると、ORIA Control 用の Stream Deck+ プロファイルのみがインストールされます。

Stream Deckを変更したり、複数のStream Deckデバイスを使用したりする場合は、[Elgato Marketplace \(<https://marketplace.elgato.com/stream-deck/profiles>\)](https://marketplace.elgato.com/stream-deck/profiles) から直接、すべてのStream Deckモデル用にORIA Controlプロファイルをインストールできます。

テクニカル スペシフィケーション

システム仕様：

- ・アナログ入力チャンネル: 2
- ・アナログ出力チャンネル: 3
- ・デジタル入力チャンネル*: 2
- ・システム・サンプルレート: 96kHz
(デジタル入力用サンプルレート変換機能内蔵)

*USB経由のオーディオストリーミングはできません。USBは電源と制御データのみに使用されます。

ライン出力（光入力経由）：

- ・最大出力レベル: +18dBu
- ・ダイナミックレンジ (Aウェイト) : 127dB
- ・THD+N (-1dBFS) : -113dB/0.0002%
- ・周波数特性 (20Hz > FS/2*) : ±0.1dB
- ・クロストーク (1kHz) : <-123dB

*入力光信号のFS/2。

ライン入力からライン出力：

- ・最大入力レベル: +18dBu
- ・ダイナミックレンジ (Aウェイト) : 122.5dB
- ・THD+N (-1dBFS) : -105dB/0.0005%
- ・周波数特性 (20Hz~40kHz) : ±0.2dB
- ・クロストーク (1kHz) : <-118dB

デジタル入力：

- ・ステレオS/PDIF: 44.1kHz~96kHz

USB：

- ・コネクタタイプ: USB-C
- ・バスパワー要件: 0.9A @ 5V (USB 3.0ポート以上)
- ・付属ケーブル: USB-C - 1m

Sonarworks 計測用マイク 技術仕様

マイクタイプ:エレクトレットコンデンサー型 トランスデューサータイプ:MEMS

周波数特性:20Hz~20kHz 指向特性:無指向性 出力インピーダンス:330Ω

感度:-40dBV/Pa

SNR:65dBA

ダイナミックレンジ:105dB

最大音圧レベル:125dBSPL

電源要件:+48Vファンタム電源 コネクタタイプ:3ピンXLR

重量:54g

安全にご使用頂くための注意



重要な安全に関する注意事項

- ・ **取扱説明書をよくお読みください** - 製品を操作する前に、すべての安全および操作に関する説明書をお読みください。
- ・ **取扱説明書を保管してください** - 安全および操作に関する説明書は、今後の参考のために保管してください。
- ・ **警告に従ってください** - 製品本体および取扱説明書に記載されているすべての警告に従ってください。
- ・ **指示に従ってください** - すべての操作および使用に関する指示に従ってください。
- ・ **清掃** - 清掃する前に、本製品のプラグを壁のコンセントから抜いてください。液体洗剤やエアゾール洗剤は使用しないでください。清掃には乾いた布を使用してください。
- ・ **付属品** - 製品メーカーが推奨していない付属品は、危険を引き起こす可能性があるため使用しないでください。
- ・ **水と湿気** - 本製品を水の近く（浴槽、洗面台、台所のシンク、洗濯槽の近く、湿気の多い地下室、プールの近くなど）で使用しないでください。
- ・ **付属品** - 本製品を不安定なカート、スタンド、三脚、ブラケット、またはテーブルの上に置かないでください。製品が落下すると、お子様や大人に重傷を負わせたり、製品自体に重大な損傷を与える可能性があります。製品の取り付けは必ず製造元の指示に従い、製造元が推奨する取り付けアクセサリを使用してください。
- ・ **火気** - 火のついたろうそくなどの裸火を製品の上に置かないでください。



保証情報

保証規定

ORIA Miniには、エンドユーザーへの発送日から3年間（36ヶ月）のメーカー保証が付いています。保証は、製造時に使用された材料の欠陥または製造上の欠陥による故障のみを対象とします。保証期間中、Audientは、故障した製品をAudient認定サービスセンターに送料着払いにて返送された場合、当社の判断により修理または交換いたします。

当社の判断により、故障が不正な改造、誤用、過失、または事故に起因する場合は、保証修理は行いません。当社は、上記の通り、ORIA Miniの修理または交換の責任を負います。当社は、その他のいかなる責任も負いません。本保証は、お客様が本製品を供給した者に対して有する法的権利に影響を与えるものではなく、それらの権利に追加されるものです。

保証の制限

本保証は、事故または誤用による損傷には適用されません。修理が認定サービスセンターによって行われない限り、保証は無効となります。製造元の指示に従わずにユニットが改造された場合、保証は無効となります。

本保証は、寿命が限られており、最適な性能を得るために定期的に交換する必要がある部品には適用されません。本製品が本書に記載されている以外の方法で動作することを保証するものではありません。

品質保証について

本機は、Audient日本総代理店株式会社Hotone Japanが、購入後3年以内の品質保証を行っております。修理の際は、購入時の保証書（購入期日及び販売店捺印必須）を提示の上、ご購入の販売店に御依頼下さい。保証書の提示が無い場合、保証内であっても3年以内の保証の対象にはなりません。

本書に記載された文章、図版、作品は、全て「著作権」及び、それに付随する「著作隣接権」等の諸権利を保有しています。弊社では内容を理解することを目的とする使用方法のみを許諾しております。

▲警告:安全のため、特に注意していただくこと

- 1.異常があるときは、電源プラグをコンセントから抜いてご購入先もしくは、弊社迄ご連絡下さい。異常な音がしたり煙が出て異臭がした時などは、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
- 2.電気ショックを避けるため、本体を絶対に開けないで下さい。内部に触ると感電する恐れがあります。内部の調整や修理は、弊社にご依頼下さい。また、火事や感電を避けるために、湿度が非常に高い場所に置いたり、雨天の際に野外で使用することは避けて下さい。

▲警告:次のような場所での使用はできる限り避けて下さい。

- 湿度の非常に高い場所
- 砂やほこりが多い場所
- 台所、バスルーム、湿気の多い地下室など、水のかかりやすい場所
- 空気の循環を妨げる場所、ヒーターの近くや温度が高い場所

■取り扱いについて乾いた柔らかい布のみを使用して、外装をきれいに保ちましょう。

■サービスについて このマニュアルに記載されていない操作や取り扱いは行わないで下さい。記載外の使用方法で本機を使用されますと製品不良が発生する場合が考えられます。必ず本書に基づいた使用方法で使用して下さい。

記載外の使用方法による破損や修理は、保証期間中の機器であっても保証対象外になります。本体の取り扱いは慎重に行って下さい。万が一、負傷された場合でも弊社では一切の責任を負いません。

修理が必要な場合は、購入先もしくは弊社へ（メールのみの対応です。）ご連絡下さい。

[商品の修理について：ホームページ内の「修理について」ページよりご連絡ください。](#)

Sonarworks 連携に関する重要なご案内

SoundID Reference についてはSonarworks社の製品となります。

ORIA Mini + SoundID Referenceコンプリートバンドルには、このSoundID Referenceを利用する為のフルライセンスが付属します。

ご利用前に下記ページを参照の上、Sonarworks社へのアカウント登録、製品登録、SoundID Referenceのダウンロードとインストールを行ってください。

<https://support.minet.jp/portal/ja/kb/articles/create-sonarworks-account-register>

ORIA Mini は Audient 側（本機・ORIA Control デスクトップ ソフトウェア）と Sonarworks 側（SoundID Reference）を組み合わせて使う設計です。導入時は、下記のように作業を分けて考えるとスムーズです。

Audient 側（インポートとプロファイル管理）

- ORIA Control デスクトップ ソフトウェアで プロファイルを作成・管理し、SoundIDプロファイルの取り込みを行います。
- Sonarworks で書き出した SoundIDプロファイルは、ORIA Control からインポートできます。SoundID プロファイル使用時は、二重処理を防ぐために SoundID Reference ソフトは閉じる/無効化してください。

Sonarworks 側（計測・書き出しとライセンス）

- SoundID Reference は Sonarworks 社の製品です。利用には Sonarworks アカウントと 製品ライセンス（シリアル）登録が必要です。
- ORIA Mini へプロファイルを書き出すには、既存ユーザーを含め 『ORIA Mini アドオンライセンス』が必要です。

Sonarworks を使わない運用（手動キャリブレーション）

- ORIA Mini は Sonarworks SoundID Reference がなくても使用可能です。Room EQ Wizard などのサードパーティ測定ツールで得た EQ カーブ／Trim／Delay を、ORIA Control の セットアップメニューで各チャンネルに手動入力できます。
- 手動キャリブレーションでは各スピーカーチャンネルに対し、EQ／Output Trim／Delay／Crossoverが設定可能です。

サポート窓口について

- Audient (本製品・ORIA Control) に関するお問い合わせ：本書のトラブルシューティングやファームウェア更新手順、入出力設定、プロファイルの管理をご参照のうえ、Hotone Japanへお問い合わせください。
- Sonarworks (SoundID Reference / ライセンス・アカウント・計測) に関するお問い合わせ：株式会社 Media Integration サポート窓口をご利用ください。

AUDIENT

audient 日本輸入総代理店
株式会社Hotone Japan
〒113-0034 東京都文京区湯島2-2-4 JP-BASE御茶ノ水9F